

平成29年度全国学力・学習状況調査の分析結果と指導改善の方策がまとまりました

4月18日（火）に実施した「全国学力・学習状況調査」の仙台市立学校の調査結果については8月に公表し、今回「仙台市確かな学力研修委員会^{*1}」による分析結果と、それを基にした指導改善の方策をまとめました。

今後はこれらをもとに、各学校において自校の学力や生活・学習状況を踏まえた課題の改善に向けた取り組みを行い、確かな学力の育成に役立ててまいります。

1 教科に関する調査の分析結果と改善方策（資料1参照）

（1）分析結果について（教科別の全国平均正答率と市平均正答率の状況）

小学生の平均正答率については、国語のA問題は、全国・宮城県・大都市のいずれも上回っている。国語のB問題は、全国・宮城県を上回っているものの、大都市を下回っている。算数のA問題は、宮城県を上回ったものの、全国・大都市を下回る結果となっている。算数のB問題は、宮城県を上回ったものの、全国と同等、大都市を下回る結果となっている。

中学生の平均正答率については、全ての教科で、全国・宮城県・大都市を上回っている。

（2）指導改善の方策について

全国平均正答率を下回った問題を中心に分析し、指導改善の方策をまとめた。

- ・小学校国語：優れた叙述に着目させ、自分の考えをもとに、表現させる。
- ・小学校算数：計算方法をグラフや言葉などとの関連で考察させ、説明させる。
- ・中学校国語：与えられた条件で抜き出した文について、自分が考えたことを説明させる。
- ・中学校数学：図や資料から性質を読み取り、数学的に処理する手順を説明させる。

（3）今後の取り組みについて

分析結果から明らかになった課題や指導改善の方策について、各学校に通知し、学校での授業改善等の取り組みに生かす。

2 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査の分析結果と改善方策（資料2参照）

（1）分析結果について

①家で、自分で計画を立てて勉強したり、学校の授業の予習や復習をしたりしている小中学生の割合が、昨年度に引き続き全国を大きく上回った。しかしながら、算数・数学では、「授業の内容はよく分かるか」などの関心・意欲・態度に関する項目において、全国を若干下回っている項目が見られた。

②「地域との関わり」に関する、地域行事への参加などの項目において、小中学生とも全国を大きく上回った。一方、小中学生とも地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらうなどの取組は全国を下回っている。

③「教員との関わり」に関する項目において、先生はよいところを認めてくれていると回答した割合は、中学生は全国を上回ったものの、小学生が全国をやや下回った。また、先生は分かるまで教えてくれると回答した小中学生の割合は、全国をやや下回った。

④「自己肯定感」に関する項目において、自分には、よいところがあると思っている割合は、小学生は全国を若干下回っているものの、小中学生ともに昨年度より増加している。また、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した割合は、小中学生ともに全国と同等である。

(2) 指導改善の方策について

今後の改善が更に必要な内容を中心に分析し、指導改善の方策をまとめた。

- ①小学校高学年の算数でつまづかないようにするため、小学校中学年の学習内容の授業改善を図り、分かる喜びを味わわせる。
- ②「地域とともに歩む学校」を基盤に、学校支援地域本部を効果的に活用するなど、学校事情に応じた、家庭・地域と連携した活動の一層の推進に努める。
- ③児童生徒と向き合い、よさや学習の状況等を把握するとともに、放課後等を活用した補充的な学習のサポート体制及び、指導手法の改善に係る研修を通したきめ細かな指導の充実を図る。
- ④児童生徒が安心して自己表現ができるような学級・学年づくりを行ったり、お互いのよさを認め合う活動等に取り組んだりするようにする。

(3) 今後の取り組みについて

分析結果から明らかになった課題や指導改善の方策について、各学校に通知し、学校での保護者等との連携した取り組みに生かす。また教育委員会でも、「学習意欲の科学的研究に関するプロジェクト委員会^{※2}」においてさらに分析を進める。

※1 仙台市確かな学力研修委員会

仙台市教育委員会が事務局となり、宮城教育大学と連携しながら、校長、教頭、教諭、指導主事を委員とし、仙台市標準学力検査及び仙台市生活・学習状況調査結果の分析及び授業改善の方策の検討を行う。

※2 学習意欲の科学的研究に関するプロジェクト委員会

東北大学の川島隆太教授をはじめとする研究者と、市内小中学校の校長や仙台市教育委員会で構成し、学校現場での経験や実例、学習意欲に関するデータなどを基に、脳科学や認知心理学の観点から学習意欲について科学的に分析し、学習意欲に関した提言を行ったり、教育施策へ生かしたりする。

平成 29 年度全国学力・学習状況調査の分析結果と改善方策（概要）

※ 全国平均値を特に上回った内容を成果、下回った部分を課題として指導改善の方策をまとめました。

（詳細は P3～10 を参照）

＜小学校＞

A：主に「知識」に関する問題

B：主に「活用」に関する問題

教科	成果	課題	指導改善の方策（概要）	
国語 A	① ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いること。	① 手紙の構成を理解し、後付けを書くこと。	⇒ 全体の構成に基づく手紙を書かせ、自分の名前と宛て名の位置関係を押さえるだけでなく、手紙の形式がもつ意味の指導も行う。	
	② 漢字を正しく読むこと。	② 漢字を正しく書くこと。	⇒ 漢字の意味を考えて、文や文章の中で正しく使えるように指導し、書いた後は必ず読み返し既習漢字は必ず使う習慣を付けさせる。	
国語 B	① 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉えること。	③ 俳句の情景を捉えること。	⇒ 音読や暗唱を通して文語の調子に親しませ、俳句に表れている情景や作者の思いなど、感じたことを交流させる指導を行う。	
		① 自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉えること。	⇒ 相手の考えの根拠や、相手の考えに対する自分の理解を確かめる質問をするなど、互いに補完し合って、自分の考えを広げたり深めたりする指導を行う。	
		② 目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書くこと。	⇒ 接続詞に着目して資料の構成を捉えさせ、読み手に分かりやすく伝えることができる書き方を判断させるような指導を行う。	
算数 A	③ 具体的な問題場面において、乗法で表すことができる二つの数量の関係を理解していること。	③ 物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめること。	⇒ 場面の展開に沿って読みながら、優れた叙述に着目し、自分の考えをまとめたり、自分の表現に生かしたりするように指導を行う。	
		① 1より小さい小数をかける乗法の問題場面を理解し、数量の関係を数直線に表すこと。	① 商を分数で表すこと。	⇒ 被除数の大きさを除数で等分した一つ分の大きさと商が一致することを図や数直線を使って考える場を設定し、実感的に理解させる。
		② 小数と整数の加法の計算をすること。	② 加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすること。	⇒ 四則の混合した式や（ ）を用いた式について理解させ、正しく計算できるようにする。
算数 B	③ 示された条件を基に、適切な式を立てること。	③ 資料から、二次元表の合計欄に入る数を求めること。	⇒ 二次元表の各欄の意味を理解させるため、「縦の項目」と「横の項目」の意味を考えさせ、説明し合う活動を取り入れる。	
		① 飛び離れた数値を除いた場合の平均を求める式を判断すること。	① 仮の平均を用いた考えを解釈し、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を記述すること。	⇒ 測定値をそのまま使って求めた平均について考察した後、基準値を決めて考察する活動を設ける。グラフや言葉などを関連付けて数の意味を解釈し、説明する活動を行う。
		② 示された式の中の数の意味を、表と関連付けながら正しく解釈し、それを記述すること。	② 問題に示された二つの数量の関係を一般化して捉え、そのきまりを記述すること。	⇒ 設問から見いだした数量の関係について、互いに自分の考えを表現し、伝え合う活動を通して、関係を一般化して捉えさせる。
		③ 身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量を判断し、その判断の理由を記述すること。	⇒ 置き換えた基準量や比較量が何であるかを捉えさせて関係を判断させ、その理由や解決の過程を表現させる場を設定する。	

<中学校>

A：主に「知識」に関する問題

B：主に「活用」に関する問題

教科	成果	課題	指導改善の方策（概要）
国語A	① 漢字を正しく読むこと。	① 事象や行為などを表す多様な語句について理解していること。	➡ その場の状況に応じた適切な言葉について考えたり、調べたりするなどの学習活動を行い、表現方法を考えさせる指導を行う。
		② 楷書と行書との違いを理解していること。	➡ 同じ文字の楷書と行書とを比較し、筆順や運筆などの違いを理解させるとともに、目的や必要に応じて書体を選んで書く意識を持たせる。
		③ 文脈に即して漢字を正しく書くこと。	➡ 字体、字形、音訓、意味や用法などの知識を得させ、文脈に即して漢字を書くように指導することを通して、漢字を正しく用いる態度と習慣も養う。
国語B	① 目的に応じて資料を効果的に活用して話すこと。	① 表現の仕方について捉え、自分の考えを書くこと。	➡ 印象に残った場面や描写を取り上げ、場面や描写がどのような内容であるのかを明確にし、感じたことや考えたことを具体的に説明したりする学習活動を行う。
		② 相手の反応を踏まえながら、事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように工夫して話すこと。	➡ 事実や事柄と、それに対する自分の考えや感想などとの関係に注意して話すようにさせ、聞き手から質問したり、内容や伝え方について助言し合ったりする場を設ける。
数学A	① 多角形の内角の和の求め方を理解していること。	① 分数の乗法の計算をすること。	➡ 分数や小数を含む計算は、文字式や方程式、一次関数などの学習の基盤となるため、確実にできるように引き続き指導を行う。
	② 具体的な事象における2つの数量の変化や対応を、グラフから読み取ること。	② 錯角の意味を理解していること。	➡ 同位角や錯角は、平行な2直線に1直線が交わった場合のみ存在するのではなく、2直線の位置関係に関わらず存在することを確認する場面を設定して定着を図る。
	③ 扇形の弧の長さを求めること。	③ 関数の意味を理解していること。	➡ 事象の中にある2つの数量の変化や対応の様子を調べ、関係を見いだす活動を通して、関数の意味を理解できるように指導を行い、「…は…の関数である」という形で表現できるようにする。
数学B	① 数学的な表現を事象に即して解釈し、的確に処理することや、筋道を立てて考え、証明すること。	① 証明した事柄を用いて、新たな性質を見いだすこと。	➡ 条件を保ったまま図形の形を変えながら観察し、辺や角について変わらない性質を見いだす活動を取り入れ、ある条件の下でいつでも成り立つ性質や関係を見いだすことができるように指導する。
	② 2つの図形の関係を回転移動に着目して捉え、数学的な表現を用いて説明すること。	② 資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること。	➡ 総度数が異なる2つの集団を扱い、資料から2つの分布の特徴を捉え、根拠を明確にして事柄が成り立つ理由を説明する活動を取り入れる。
	③ 与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ること。	③ 事象と式の対応を的確に捉え、事象が成り立つ理由を説明すること。	➡ 式を構成している数字や文字が何を表しているかを読み取る場面を設定し、式が成り立つ理由を説明する活動を取り入れる。

【小学校 国語 A 問題 –主として「知識」に関する問題について–】

分析結果

※ 平均正答率は全て公立学校の値
 ※ 「大都市」とは政令指定都市と東京 23 区

【平均正答率 (%)】

宮城県	大都市	全国	仙台市	全国との差
74	75.2	74.8	76	+1.2

※宮城県及び仙台市の平均正答率は、国の公表による整数値で表示

【観点別平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
国語への関心・意欲・態度	—	—	—
話す・聞く能力	69.2	72.3	+3.1
書く能力	60.6	59.2	-1.4
読む能力	70.2	68.4	-1.8
言語についての知識・理解・技能	78.0	79.4	+1.4

【学習指導要領の領域等の平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
話すこと・聞くこと	69.2	72.3	+3.1
書くこと	60.6	59.2	-1.4
読むこと	70.2	68.4	-1.8
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	78.0	79.4	+1.4

〔国語 A : ○成果と●課題について〕

- ① ことわざの使い方の例として適切なものを選択する二つの問題の正答率は、それぞれ 92.6%、86.3%と高く、いずれも全国を 2.6 ポイント、2.7 ポイント上回っている。
- ② 漢字を読む三つの問題（「期限」、「事務室」、「指示」）の正答率は、それぞれ 96.0%、92.1%、96.6%と高く、いずれも全国を 1.5 ポイント、3.3 ポイント、2.1 ポイント上回っている。
- ① 手紙の後付けについて適切なものを選択する問題の正答率は 39.8%と、A 問題中で一番低くなっている。また、全国を 1.7 ポイント下回っている。自分の名前が最後となる類型（誤答）の合計が 50.2%にもなっている。
- ② 漢字を書く三つの問題（「対象」、「希望」、「置いて」）における「対象」は全国を 5.3 ポイント上回っているが、正答率は 47.3%と低く、無解答率も 13.7%と高くなっている。また、「置いて」の正答率は 80.1%と高く、全国を 3.3 ポイント上回っているが、無解答率が 11.9%と高くなっている。
- ③ グループの話し合いを通して見つけた俳句のよさとして適切なものを選択する問題の正答率は 55.3%で、全国を 1.7 ポイント下回っている。

指導改善の方策

<上記○●に対応した指導上のポイント>

- ① ことわざの意味や使い方を正しく理解するためには、国語辞典やことわざ辞典などを日常的に活用できるように指導することが大切である。また、児童が辞典を使用することに対して、興味・関心をもって学習を継続することができるような工夫が大切である。
- ② 漢字を読む指導では、形態を工夫した音読を通して繰り返し指導することが大切である。その際、音読みや訓読み、熟語などにも触れながら、語彙の拡充、正しい語意、語感の涵養も図ることが大切である。
- ① 手紙を書く学習活動は、国語科のみならず、他教科等においても活用されるものである。低学年では、宛て名、本文、自分の名前という簡略された手紙になることが多い。高学年では、「前文」、「本文」、「末文」、「後付け」といった全体の構成に基づいた手紙を書かせることが大切である。その際、縦書きの手紙の場合には、自分の名前と宛て名の位置関係を押さえるとともに、「宛て名を最終行の上の位置に書くことで相手への敬意を示すことにつながる」など、手紙の形式がもつ意味について指導することも大切である。
- ② 学習した漢字を字形に注意しながら繰り返し書いて練習することのみならず、漢字のもつ意味を考えながら、文や文章の中で正しく使うことができるように指導することが大切である。そのためには、書いたものは読み返すとともに、既習漢字を使う習慣を付けさせることが大切である。
- ③ 季節感や風情、俳句に込められた思いなどを思い浮かべること、七音五音のリズムから国語の美しい響きを感じ取りながら音読したり暗唱したりすることを通して文語の調子に親しむ指導に加えて、俳句に表れている情景や作者の思いなどについて感じたことを互いに交流させることも大切である。

【小学校 国語B問題 ー主として「活用」に関する問題についてー】

分析結果

※ 平均正答率は全て公立学校の値
 ※ 「大都市」とは政令指定都市と東京23区

【平均正答率 (%)】

宮城県	大都市	全国	仙台市	全国との差
56	58.5	57.5	58	+0.5

※宮城県及び仙台市の平均正答率は、国の公表による整数値で表示

【観点別平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
国語への関心・意欲・態度	41.7	43.0	+1.3
話す・聞く能力	64.9	63.1	-1.8
書く能力	53.4	54.5	+1.1
読む能力	49.2	50.8	+1.6
言語についての知識・理解・技能	—	—	—

【学習指導要領の領域等の平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
話すこと・聞くこと	64.9	63.1	-1.8
書くこと	53.4	54.5	+1.1
読むこと	49.2	50.8	+1.6
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	—	—	—

〔国語B：○成果と●課題について〕

- ① 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉える問題の正答率は79.2%で、全国を3.3ポイント上回っている。
- ① 「きつねの写真」を読んだあとの話し合いにおける発言の意図として適切なものを選択する問題の正答率は24.9%で、全国を3.1ポイント下回っている。
- ② 「水やりに協力してくれる人をば集めます」に入る文章を書く問題では、全国を1.3ポイント上回ってはいるものの、正答率は34.3%と低い。
- ③ 「きつねの写真」から取り上げた言葉や文を基に、松ぞうじいさんとび吉がきつねだと考えたわけをまとめて書く問題の正答率は48.4%で、全国を4.7ポイント上回っているが、全国と比べ無解答率が21.0%と高くなっている。

指導改善の方策

<上記○●に対応した指導上のポイント>

- ① 高学年では、読む本や文章が多様になるため、文章全体から作者や筆者の述べたい内容や要旨を捉えさせたり、複数の本や文章などについて様々な読み方を身に付けさせたりする必要がある。具体的には、心に残った叙述を取り上げ、その叙述をどのように解釈したのか、自分の考えを明らかにしながら話し合い、一人一人の感じ方に違いがあることに気付き、各自の読みを広げていくことができるように指導することが大切である。
- ① ①に加えて、物語を読んで感想を伝え合う場合、相手の考えがどの叙述に基づいているのかを明確にするために、根拠について質問したり、相手の考えを聞いた上で、自分の理解が正しいか質問をして確かめたりするなど、互いに補完し合うことによって、考えを広げたり深めたりすることができるように指導することが考えられる。「自分の考えについて友達の意見を聞きたい」、「分からないところを相談したい」など、児童一人一人が交流の必然性をもつことができるように指導することが大切である。
- ② 「目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書くことができるかどうか」が出題の趣旨である。「目的や意図に応じて」書く際、簡単に書くか、詳しく書くか、どちらの場合が読み手に分かりやすく伝えることができるかを判断することができるように指導することが大切である。また、「必要な内容を整理する」際には、「まず」、「それから」などの接続詞に着目して資料の構成を捉える指導が必要である。
- ③ 叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめるためには、一つの場面の叙述だけを対象とするにとどまらず、複数の場面を比較したり、物語全体に広がっている複数の叙述を関係付けたりして読むことが重要である。さらに、高学年においては、場面の展開に沿って読みながら、感動やユーモア、安らぎなどを生み出す優れた叙述に着目して自分の考えをまとめることができるように指導することが大切である。また、象徴性や暗示性の高い表現や内容、メッセージや題材を強く意識させる表現や内容に気付き、自分の表現に生かして感想などをまとめることができるように指導することも大切である。

【小学校 算数A問題 –主として「知識」に関する問題について–】

分析結果

※ 平均正答率は全て公立学校の値
 ※ 「大都市」とは政令指定都市と東京23区

【平均正答率 (%)】

宮城県	大都市	全国	仙台市	全国との差
77	79.2	78.6	78	-0.6

※宮城県及び仙台市の平均正答率は、国の公表による整数値で表示

【観点別平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
算数への関心・意欲・態度	—	—	—
数学的な考え方	—	—	—
数量や図形についての技能	77.7	76.1	-1.6
数量や図形についての知識・理解	79.7	81.3	+1.6

【学習指導要領の領域等の平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
数と計算	80.6	79.7	-0.9
量と測定	68.8	70.1	+1.3
図形	81.1	81.5	+0.4
数量関係	79.6	79.3	-0.3

〔算数A：○成果と●課題について〕

- ① 買ったリボンの長さで1m当たりのリボンの値段と代金が、それぞれ数直線上のどこに当てはまるかを選ぶ問題の正答率は**76.4%**で全国を**6.5**ポイント上回っている。
- ② 小数と整数の加法の計算ができるかをみる問題 ($10.3+4$) の正答率は**82.5%**で、全国を**2.8**ポイント上回っている。
- ③ 1mのリボンの値段が分かっている、2mと3mを買ったときの値段を求める問題の正答率は**96.9%**で、全国と同等ではあるが、全設問中最も高い正答率となっている。
- ❶ 整数のわり算で商を分数で表す問題 ($5\div 9$) の正答率は**56.2%**と、今回の調査で最も正答率が低い設問となっていて、全国を**13.0**ポイントも下回っている。
- ❷ 加法と乗法の混合した整数と小数の計算 ($6+0.5\times 2$) の正答率は**62.6%**で、全国を**4.0**ポイント下回っている。
- ❸ 資料から、二次元表の合計欄に入る数を求める問題では、正答率が全国を**0.4**ポイント上回っているものの**63.2%**と今回調査で3番目に低い設問になっている。

指導改善の方策

<上記○●に対応した指導上のポイント>

- ① 1より小さい小数をかける乗法の問題場面を理解し、数量の関係を数直線に表すことが求められている。問題場面的に捉え、数量の関係を図や数直線などに表すことは、問題を解決する上でとても大切である。問題場面の二つの数量関係を、図や数直線などに表す活動を十分に取り入れることが考えられる。
- ❶ 解答類型4 [類型1以外で $0.555\cdots$ を分数で表そうとしているもの] の反応率が**13.7%**、解答類型2 [$9/5$ または 1 と $4/5$ と解答しているもの] の反応率が**6.3%**であることから、5年時に学習した $\square\div\square=\square/\square$ と表すことができることをしっかり覚えていないものと考えられる。被除数の大きさを除数で等分した一つ分の大きさと商が一致することを図や数直線を使って考える場を設定し、実感的に理解させることが大切である。
- ❷ 解答類型2 [13 と解答しているもの] の反応率が**21.0%**であることから、加法と乗法の混じった計算では、乗法から先に計算することを忘れて順番に計算したものと考えられる。4学年で四則の混合した式や()を用いた式について理解し、正しく計算できるようにすることが大切である。
- ❸ 解答類型2 [26 と解答しているもの] の反応率が**12.4%**であることから、調査した人数 13 を2回たしていると考えられる (縦の合計と横の合計を合わせている)。資料を二次元表にまとめさせる場合、各欄の意味について理解できるようにするために、二次元表の「縦の項目」と「横の項目」の意味を考え、説明し合う活動を取り入れていきたい。

【小学校 算数B問題 ー主として「活用」に関する問題についてー】

分析結果

※ 平均正答率は全て公立学校の値
 ※ 「大都市」とは政令指定都市と東京23区

【平均正答率 (%)】

宮城県	大都市	全国	仙台市	全国との差
44	47.4	45.9	46	+0.1

※宮城県及び仙台市の平均正答率は、国の公表による整数値で表示

【観点別平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
算数への関心・意欲・態度	—	—	—
数学的な考え方	45.4	45.3	-0.1
数量や図形についての技能	—	—	—
数量や図形についての知識・理解	48.6	48.7	+0.1

【学習指導要領の領域等の平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
数と計算	52.8	52.6	-0.2
量と測定	47.0	45.1	-1.9
図形	13.2	13.4	+0.2
数量関係	40.0	40.1	+0.1

〔算数B：○成果と●課題について〕

- ① 示された割合を解釈して、基準量と比較量の関係を表している図を判断することができるかどうかをみる問題の正答率は67.4%で、全国を2.4%上回っている。
- ② 示された式の中の数が表す意味を書き、その数が表のどこに入るかを選ぶ問題の正答率は41.2%で、全国を1.4ポイント上回っている。
- ③ カードの差が4の場合の2けたのひき算の式と答えを書く問題の正答率は77.2%で、全国を1.2ポイント上回っている。
- ① 仮の平均値を用いた考えを解釈し、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を記述する問題の正答率は22.7%で、全国を3.4ポイント下回っている。
- ② 問題に示された二つの数量の関係を一般化して捉え、そのきまりを記述する問題の正答率は36.8%で、全国を1.8ポイント下回っている。
- ③ 与えられた情報から、基準量、比較量、割合の関係を捉え、「最大の満月の直径」に近い硬貨を選び、選んだわけを書く問題の正答率は13.4%で、全国を0.2ポイント上回ってはいるものの、今回調査で最も正答率が低い設問になっている。

指導改善の方策

＜上記○●に対応した指導上のポイント＞

- ② 分類整理した資料を目的に応じて二次元表に作り直す活動を通して、二次元表の理解を深めることができるようにすることが大切である。
- ① 解答類型7[7mを基準にして記述しているもの]の解答率が17.4%、解答類型3[①を書いているもの]の解答率が10.3%、無解答が15.5%となっている。測定値の平均を求める際は、能率的に処理するために工夫して計算することが大切である。測定値の結果をそのまま使って平均を求める場合について考察した後、基準値を決めて考察する活動を設けることが考えられる。その際、グラフや式、言葉などを関連付けて式の中の数の意味を解釈し、説明する活動も取り入れていきたい。
- ② 解答類型7[具体的な「カードの差」と「2けたのひき算の答え」の例を書いているもの]の解答率が11.6%、無解答が20.6%となっている。問題に示された二つの数量の関係を一般化して捉え、そのきまりを言葉と数を用いて記述することに課題がある。本設問を用いて「カードの差が1,2,3などの場合の2桁のひき算の答え」を整理し、そこから見いだすことができる数量の関係について、互いに自分の考えを表現し伝え合う活動が考えられる。
- ③ 日常生活の事象を、割合を活用して数学的に解決するためには、数量の関係を身近なものや図などに置き換えて、基準量・比較量・割合の関係を的確に捉え判断することが大切である。また、判断した理由や問題を解決した過程を数学的に表現することができるような場を設定していくことが重要である。

【中学校 国語A問題 –主として「知識」に関する問題について–】

分析結果

※ 平均正答率は全て公立学校の値
 ※ 「大都市」とは政令指定都市と東京23区

【平均正答率 (%)】

宮城県	大都市	全国	仙台市	全国との差
77	77.7	77.4	81	+3.6

※宮城県及び仙台市の平均正答率は、国の公表による整数値で表示

【観点別平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
国語への関心・意欲・態度	—	—	—
話す・聞く能力	75.4	79.6	+4.2
書く能力	85.7	89.5	+3.8
読む能力	73.8	78.6	+4.8
言語についての知識・理解・技能	77.2	79.3	+2.1

【学習指導要領の領域等の平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
話すこと・聞くこと	75.4	79.6	+4.2
書くこと	85.7	89.5	+3.8
読むこと	73.8	78.6	+4.8
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.2	79.3	+2.1

〔国語A：○成果と●課題について〕

- ① 漢字を読む三つの問題（「覚悟」、「鮮やか」、「垂れる」）の正答率は、それぞれ99.4%、96.7%、95.0%であり、相当数の生徒ができています。いずれも、全国を上回っている。
- ① 話し合いの記録として適切な言葉を考える問題では全国を6.6ポイント上回ってはいるものの、正答率は42.4%と低くなっている。
- ② 楷書と比較したときの行書の説明として適切なものを選択する問題では全国を5.4ポイント上回ってはいるものの、正答率は55.0%と他の問題と比べて低くなっている。
- ③ 漢字を書く三つの問題中、「規模」は他の二つの漢字に比べ、正答率が57.7%と低く、全国を5.1ポイント下回っている。無解答率は18.5%と高く、全国を上回っている。

指導改善の方策

<上記○●に対応した指導上のポイント>

- ① 漢字を読むことの指導においては、漢字一字一字の音訓を理解し、語句として、話や文章における文脈に即して意味や用法を理解しながら読むように指導するようにする。その際、教科書を読むことや読書を通して、漢字の読みの習熟と応用を図ることが重要である。また、字形と音訓、意味と用法、語の成り立ち、熟語の構成などについて必要に応じて指導し、「へん」や「つくり」などに着目して読みや意味を類推することができるように指導することも大切である。
- ① 事象や行為などを表す多様な語句を、生活の中の様々な場面や状況に応じて、適切に使うことができるようにする必要がある。例えば、学校生活の中で話し合いなど具体的な場面を取り上げ、その場の状況に応じた適切な言葉について考えたり、調べたりするなどの学習活動が有効である。その際、漢語などを用いて短い言葉で表す方がよいのか、文や文章を用いて丁寧に表す方がよいのかなど、目的や場面を踏まえて考えさせることが大切である。
- ② 書写の指導では、楷書と行書のそれぞれの特徴について理解することができるように指導する必要がある。行書の基礎を学習する段階では、同じ文字の楷書と行書とを比較し、筆順や運筆などの違いについて理解するとともに、それらを生かして行書で書く学習活動が有効である。実際に文字を書く中で「行書」や「筆脈」などの用語について理解させることも重要である。また、学校生活において、メモやノート、会議録、掲示物などを書く際に、書く目的や必要に応じて書体を選んで書くなど意識的に書写の学習成果を生かすように指導する。
- ③ 漢字を書くことの指導においては、字体、字形、音訓、意味や用法などの知識を活かし、文脈に即して漢字を書くように指導することが必要である。漢字を書く力を身に付けさせるためには、実際に書く活動を通して、漢字を正しく用いる態度と習慣を養う必要がある。そのためには、必要に応じて辞書を引くことを習慣付けることが有効である。

【中学校 国語B問題 ー主として「活用」に関する問題についてー】

分析結果

※ 平均正答率は全て公立学校の値
 ※ 「大都市」とは政令指定都市と東京23区

【平均正答率 (%)】

宮城県	大都市	全国	仙台市	全国との差
73	72.6	72.2	77	+4.8

※宮城県及び仙台市の平均正答率は、国の公表による整数値で表示

【観点別平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
国語への関心・意欲・態度	55.9	62.3	+6.4
話す・聞く能力	72.4	77.2	+4.8
書く能力	60.8	66.5	+5.7
読む能力	72.1	76.7	+4.6
言語についての知識・理解・技能	41.4	47.9	+6.5

【学習指導要領の領域等の平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
話すこと・聞くこと	72.4	77.2	+4.8
書くこと	60.8	66.5	+5.7
読むこと	72.1	76.7	+4.6
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	41.4	47.9	+6.5

〔国語B：○成果と●課題について〕

- ① 「活用」に関するB問題は全9問すべてにおいて全国を上回っており、最大で7.1ポイント、最小でも3.1ポイントの開きがある。
- ② スピーチの中で実演を行った意図として適切なものを選択する問題の正答率は88.8%で、全国を3.4ポイント上回っている。
- ① 比喩を用いた表現に着目し、感じたことや考えたことを書く問題では、全国を6.5ポイント上回っているが、正答率は47.9%と低くなっている。無解答率は11.6%と全問を通して最も高くなっている。また、条件を一つだけ満たしているもの、どの条件も満たしていないものを合わせた誤答は、19.1%になっている。
- ② スピーチの内容を聞き手からの意見に基づいて直す問題は、全国を5.5ポイント上回ってはいるものの、正答率は63.1%である。相手の反応を踏まえながら、事実や事柄を相手に分かりやすく伝わるように工夫して話すことに課題がある。

指導改善の方策

<上記○●に対応した指導上のポイント>

- ② スピーチや話し合いなどをする際には、自分の伝えたいことを聞き手に分かりやすく伝わるように工夫して話すように指導することが大切である。例えば、スピーチの際に工夫した点やその効果について検討するなどの学習活動を取り入れるようにする。また、資料を提示したり実演を行ったりした際には、なぜそのようにしたのか、話し手の立場から説明することや、その効果や改善点について聞き手の立場から意見を述べることを学習活動に組み入れるようにする。
- ① 文学的な文章を読んで、感じたことや考えたことなどについて交流することは、自分のものの見方や考え方を広げたり、読書の楽しさを味わったりする上で重要である。印象に残った場面や描写を取り上げ、なぜその場面や描写が印象に残ったのかを具体的に説明する学習活動が有効である。その際、取り上げた場面や描写がどのような内容であるのかを明確にさせ、感じたことや考えたことを具体的に説明させるようにする。さらに、比喩や反復などの表現の技法についての知識を生かすなど、これまでの学習を踏まえた指導をすることも大切である。特に、比喩については、「誰(何)」の、「どのような」様子なのかを明確にし、その表現について感じたことや考えたことを具体的に説明する学習活動が有効である。
- ② スピーチなどをする際に、自分の伝えたいことを聞き手に分かりやすく伝えるためには、事実や事柄と、それに対する自分の考えや感想などとの関係に注意して話すことが大切である。また、話す目的や、聞き手はその話題についてどのような点に関心があり、どのような情報をもっているかなどの状況によって話し方が変わってくることに留意する必要がある。実際にスピーチなどをする場面では、表現の仕方や聞き方を互いに学び合えるように、聞き手から質問したり、内容や伝え方について助言し合ったりする場を設けることが有効である。

【中学校 数学A問題 –主として「知識」に関する問題について–】

分析結果

※ 平均正答率は全て公立学校の値
 ※ 「大都市」とは政令指定都市と東京23区

【平均正答率 (%)】

宮城県	大都市	全国	仙台市	全国との差
63	65.1	64.6	68	+3.4

※宮城県及び仙台市の平均正答率は、国の公表による整数値で表示

【観点別平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
数学への関心・意欲・態度	—	—	—
数学的な見方や考え方	—	—	—
数学的な技能	68.2	71.4	+3.2
数量や図形などについての知識・理解	60.2	63.4	+3.2

【学習指導要領の領域等の平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
数と式	70.4	73.1	+2.7
図形	66.0	69.4	+3.4
関数	57.4	61.0	+3.6
資料の活用	57.6	61.4	+3.8

〔数学A：○成果と●課題について〕

- ① n角形の1つの頂点からひいた対角線によって分けられる三角形の数を選ぶ問題や、線香が燃えるときの時間と長さの関係を表したグラフを基に2cm燃えるときの時間を選ぶ問題の正答率は70%を超え、どちらの問題も全国を7ポイント以上上回っている。
- ② 等式を目的に応じて変形することができるかどうかの問題の正答率は63.2%で、全国を7.1ポイント上回っている。
- ③ 与えられた度数分布表について、ある階級の相対度数を求めることができるかどうかの問題の正答率は52.4%で、全国を6.9ポイント上回っている。
- ① 分数の乗法の計算 ($5/9 \times 2/3$) の正答率は85.5%で、全国を1.6ポイント下回っている。
- ② 錯角の位置にある角について正しい記述を選ぶ問題の正答率は42.3%と低く、全国と比べても0.8ポイント下回っている。
- ③ 長方形の縦の長さとの面積の関係を、「……は……の関数である」という形で表現する問題の正答率は、全国を3.6ポイント上回っているものの、24.2%と全問中一番低い正答率となっている。

指導改善の方策

<上記○●に対応した指導上のポイント>

- ③ 解答類型2[3(階級の度数)]の解答率が12.9%、無解答が13.5%となっている。与えられた度数分布表について、ある階級の相対度数を求めることに課題がある。また、階級の相対度数と階級の度数を混同している生徒がいると考えられる。ある階級の度数の総度数に占める割合を求めて、資料の傾向を読み取る活動を取り入れ、相対度数の必要性和意味について理解できるように指導することが大切である。
- ① 分数や小数を含む計算は、正の数と負の数の学習だけでなく、文字式や方程式、比例、反比例、一次関数などの学習の基盤となるため、確実にできるように指導することが大切である。
- ② 解答類型6[$\angle x$ の錯角は $\angle a$ から $\angle e$ までの中にはない]の解答率が38.4%となっている。この中には、錯角は平行な2直線に1直線が交わった場合のみに存在するものと捉えている生徒がいると考えられる。同位角や錯角は、平行な2直線に1直線が交わった場合について扱われることが多い。そのため、「同位角や錯角は平行な2直線においてのみ存在する」、「同位角や錯角は常に等しい」などと誤った理解をしている生徒がいると考えられる。そこで、2直線に1直線が交わる場合、「2直線の位置関係に関わらず、同位角や錯角は存在する」「2直線が平行ならば、同位角や錯角はそれぞれ等しくなる」ことを確認する場面を設定することが大切である。
- ③ 解答類型4[「縦の長さ」と「面積」を反対に書いている]の解答率が23.3%、無解答が17.5%となっている。事象の中にある2つの数量の変化や対応の様子を調べ、それらの関係を見いだす活動を通して、関数の意味を理解できるように指導することが大切である。その際、独立変数と従属変数との違いを意識して「…は…の関数である」という形で表現できるように指導することが大切である。

【中学校 数学B問題 ー主として「活用」に関する問題についてー】

分析結果

※ 平均正答率は全て公立学校の値
 ※ 「大都市」とは政令指定都市と東京23区

【平均正答率 (%)】

宮城県	大都市	全国	仙台市	全国との差
47	48.8	48.1	52	+3.9

※宮城県及び仙台市の平均正答率は、国の公表による整数値で表示

【観点別平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
数学への関心・意欲・態度	—	—	—
数学的な見方や考え方	36.8	39.8	+3.0
数学的な技能	61.2	66.9	+5.7
数量や図形などについての知識・理解	85.1	87.8	+2.7

【学習指導要領の領域等の平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
数と式	46.3	49.5	+3.2
図形	47.1	51.3	+4.2
関数	50.8	55.7	+4.9
資料の活用	49.1	50.1	+1.0

〔数学B：○成果と●課題について〕

- ① 与えられた式から a の変域に対応する b の変域を求める問題や、2つの角の大きさが等しいことを三角形の合同を利用して証明する問題の正答率は50%を越え、どちらも全国を8ポイント以上上回っている。
- ② 2つの図形の関係を回転移動に着目して捉え、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかの問題の正答率は20.1%ではあるが、全国を6.1ポイント上回っている。
- ③ 与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる問題の正答率は93.8%と高く、全国を3.0ポイント上回っている。
- ① 図形で、証明した事柄を用いて、新たな性質を見出すことができるかどうかの問題の正答率は42.9%で、全国を1.6ポイント下回っている。
- ② 資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかの問題の正答率は16.4%と全問中一番低く、無解答率が28.7%で、全国を1.2ポイント下回っている。
- ③ 六角形をn個つくるのに必要なストローの本数を、 $6+5(n-1)$ という式で求めることができる理由を説明する問題は、正答率が16.4%で、全国を1.9ポイント上回っているものの、16.4%の正答率で無解答が21.4%となっている。

指導改善の方策

<上記○●に対応した指導上のポイント>

- ② 本設問を使って授業を行う場合には、四角形 ABCD の模様はどのような回転移動によって、四角形 GBEF の模様と重なるかを捉える場面を設定することが考えられる。回転移動では、対応する点は回転の中心から等しい距離にあり、対応する点と回転の中心を結んでできる角の大きさはすべて等しいことを見いだす場面を設定することが大切である。
- ① 解答類型2[∠BFDの大きさは、大きくなっていく]の反応率が46.9%と非常に高くなっている。点Dのみを動かしたときの∠BDFの大きさについて答えた生徒がいると考えられる。条件を保ったまま図形の形を変えながら観察し、辺や角について変わらない性質を見いだす活動を取り入れ、ある条件の下でいつでも成り立つ性質や関係を見いだすことができるように指導することが大切である。
- ② 解答類型9[正答以外の解答]が50.2%となっている。資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。総度数が異なる2つの集団を扱い、資料から2つの分布の特徴を捉え、根拠を明確にして事柄が成り立つ理由を説明する活動を取り入れることが考えられる。
- ③ 事象を数学的に表現したり、数学的に表現された結果を事象に即して解釈したりすることを通して、事柄が成り立つ理由を筋道立てて説明することに課題があると考えられる。本設問を使って授業を行う際には、囲み方で必要なストローの本数が表されることを確認し、その囲み方と式 $6+5(n-1)$ で必要なストローの本数が表される理由を説明する活動を取り入れることが考えられる。その際、 $6+5(n-1)$ の「6」や「 $5(n-1)$ 」が何を表しているかを読み取る場面を設定することが大切である。

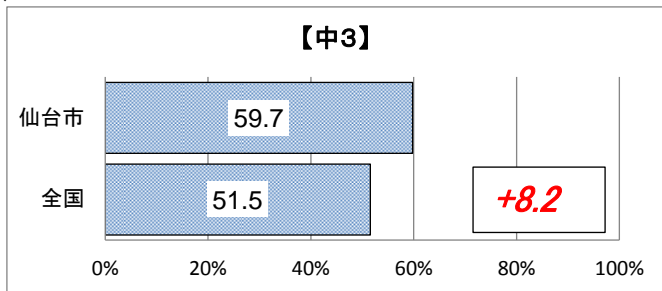
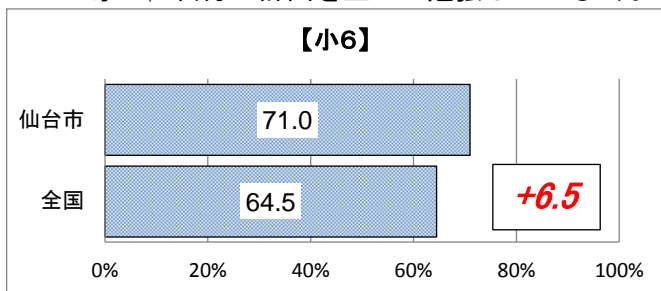
平成29年度全国学力・学習状況調査
 児童生徒質問紙調査の分析結果と改善方策(概要)

※全国との比較で、大きな違いがあった主な項目をまとめた。
 (グラフの数値は、当てはまる、どちらかといえば当てはまるを合わせた割合)

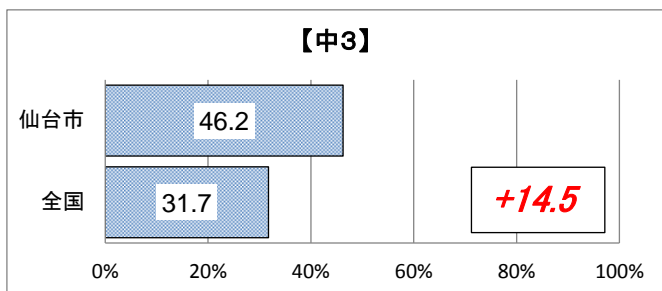
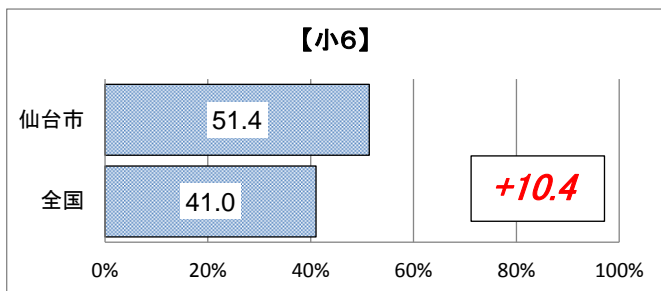
【分析結果 1】

家で、自分で計画を立てて勉強をしたり、学校の授業の予習や復習をしたりしていると回答した児童生徒の割合が高い。

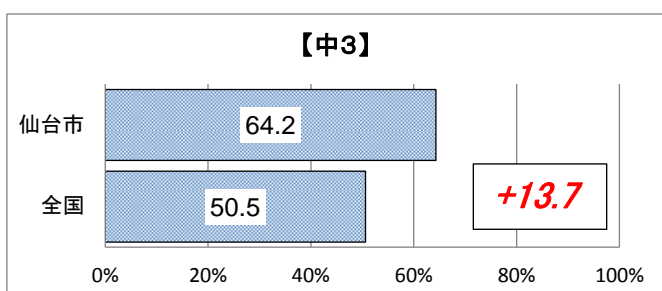
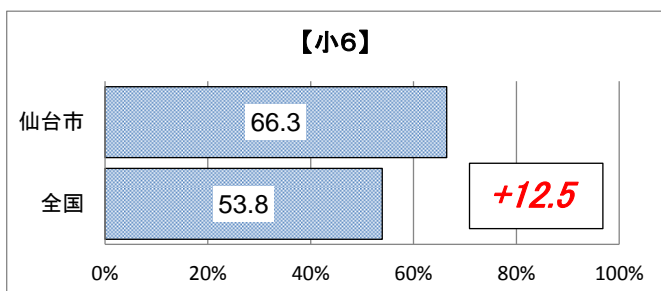
3 1. 家で、自分で計画を立てて勉強している (小 29)



3 3. 家で、学校の授業の予習をしている (小 31)



3 4. 家で、学校の授業の復習をしている (小 32)



□指導改善の方策

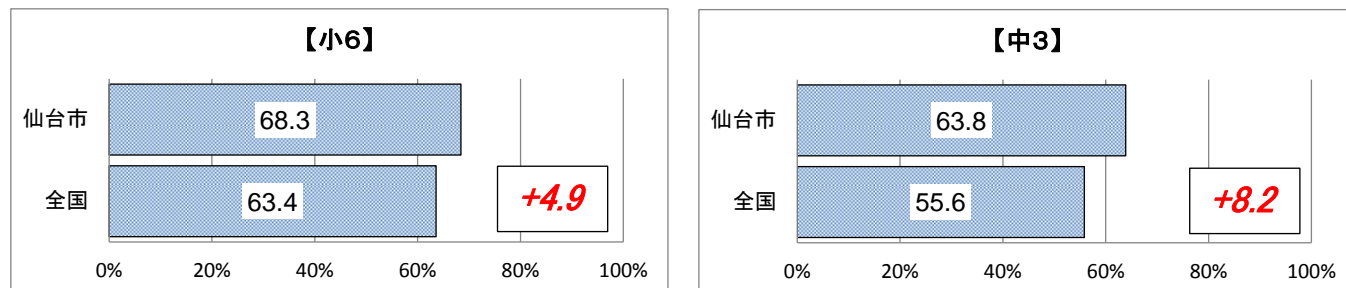
○計画的な家庭学習の推進と小中連携による共通理解

- ・ 「家庭学習ノート仙台」の活用や「学習の手引き」等の作成などを通し、児童生徒自身が自分の課題を認識して目標を立て、改善のための「学習計画」を立てるなど、家庭学習の習慣化を図るようにする。また、小中連携の取組の中で、小学校で行っている家庭学習の仕方等を情報交換することにより、小中互いに、家庭学習への働き掛けに生かすようにする。

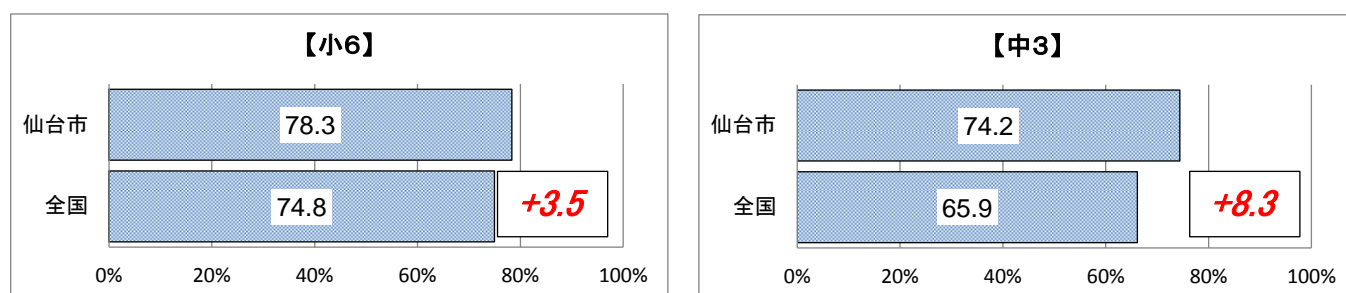
【分析結果 2】

国語では、意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫したり、自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いたりしていると回答した児童生徒の割合が高い。

77. 国語の授業で発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している（小75）



78. 国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いている（小76）



□指導改善の方策

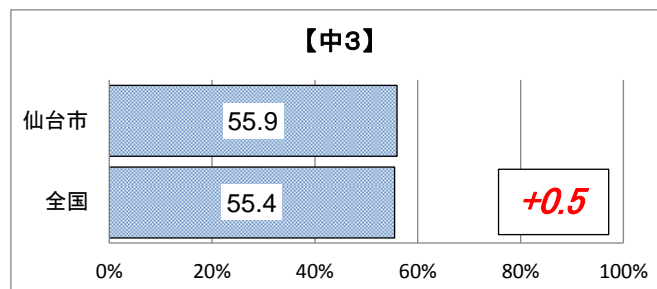
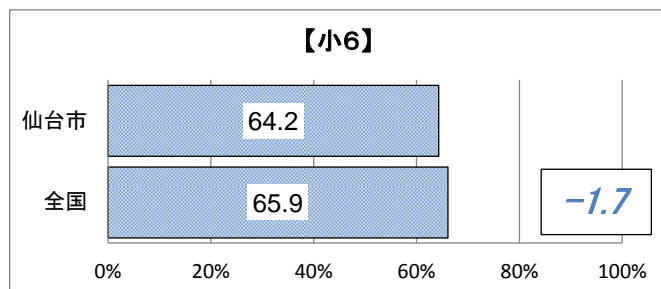
○全体的な底上げを意識した指導

- ・ 話す・書くという言語活動において、児童生徒が意欲的に取り組んでいることから、話す・書くことを苦手としている児童生徒に対しての個別指導を充実させるなど、全体的な底上げを意識して指導する。

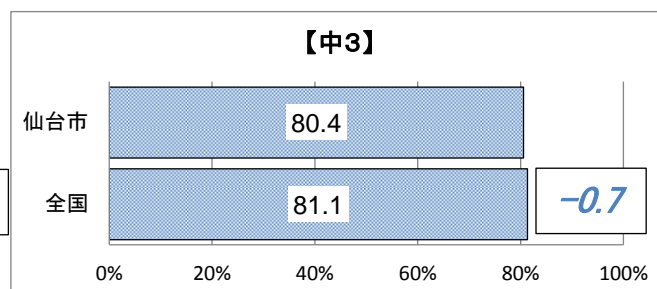
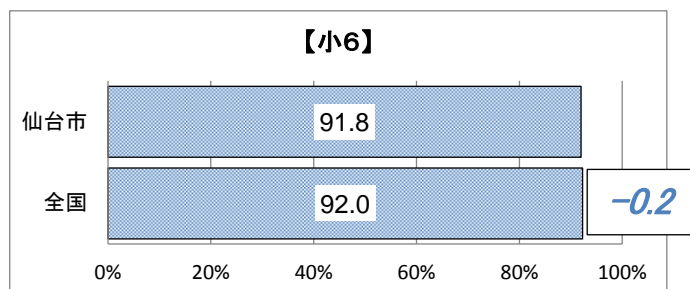
【分析結果 3】

算数・数学では、関心・意欲・態度に関する項目において、全国を下回っている項目が複数ある。特に、小学校においてその傾向が見られる。また、算数・数学の授業の内容はよく分かったと回答した割合は、小中学生ともに全国を下回っている。

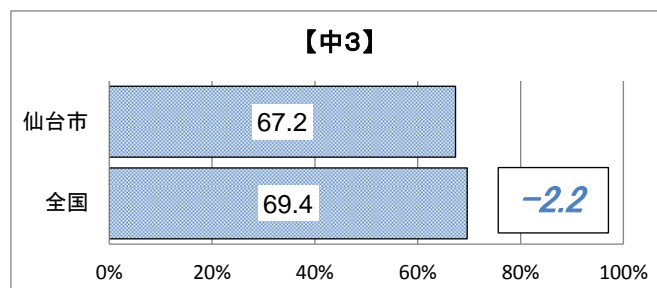
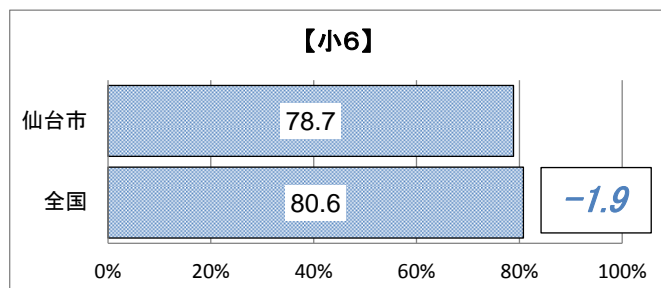
80. 算数・数学の勉強は好きですか (小 78)



81. 算数・数学の勉強は大切だと思うか (小 79)



82. 算数・数学の授業の内容はよく分かりますか (小 80)



□指導改善の方策

○小学校高学年の算数でつまづかないための課題改善の工夫

- ・ 小学校高学年において算数を苦手としている児童は、小学校中学年の学習内容が身に付いていない場合が多い。そのため、小学校中学年で定着させにくい内容等について、指導方法の工夫や実践事例の紹介を行うようにすることで授業改善を図り、分かる喜びを味わわせる。

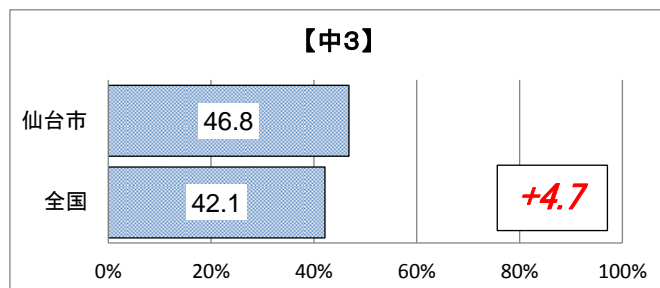
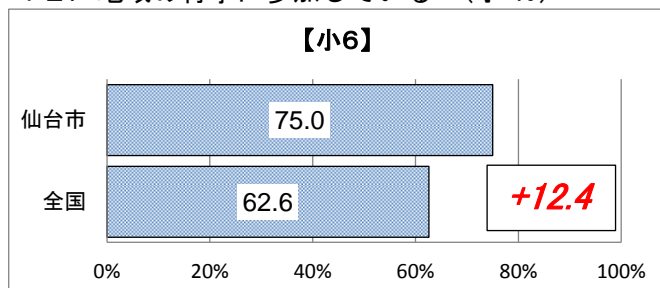
○市標準学力検査の結果を踏まえた指導改善方策の実践

- ・ 市標準学力検査の結果及び児童生徒の実態を踏まえて、各学校で作成した指導改善方策について、継続的な実践を図る。また、確かな学力研修委員による提案授業の参観や指導改善事例を参考にした実践をとおして、確かな学力を身に付けさせると共に、教員の授業力の向上を図っていく。

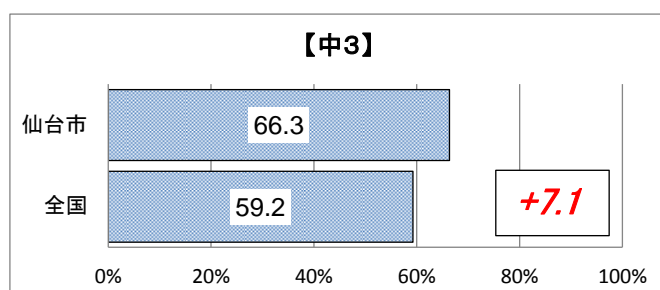
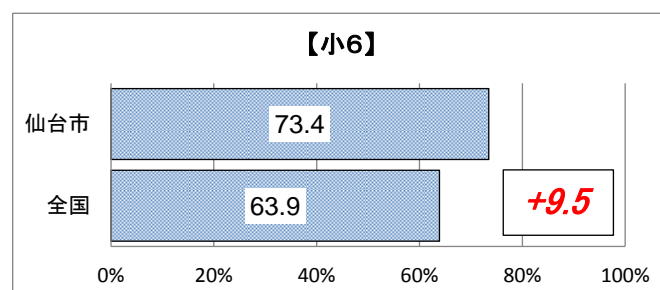
【分析結果 4】

「地域との関わり」に関する項目について、小中学生とも全国を大きく上回り、地域との連携が進んできていることがうかがえる。しかしながら、小中学生とも地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらうなどの取組が全国より低い状況である。

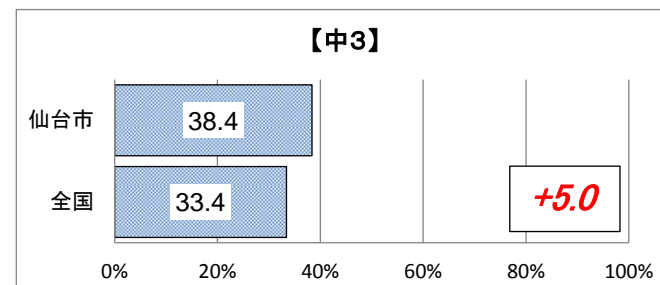
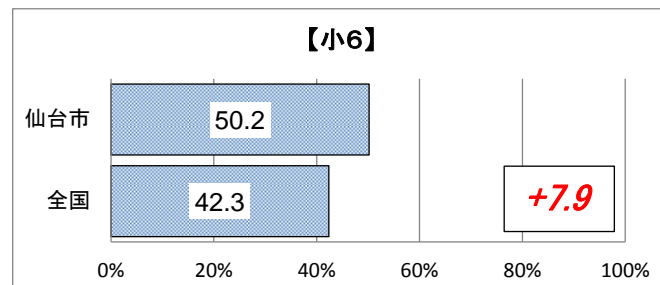
4 2. 地域の行事に参加している (小 40)



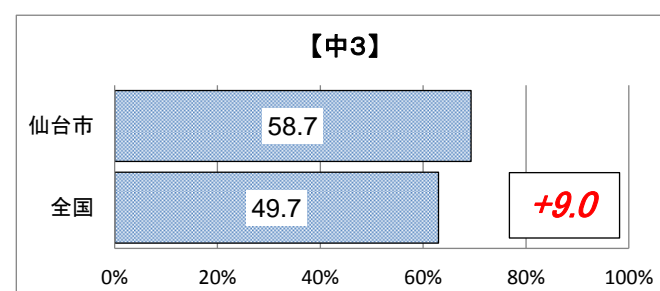
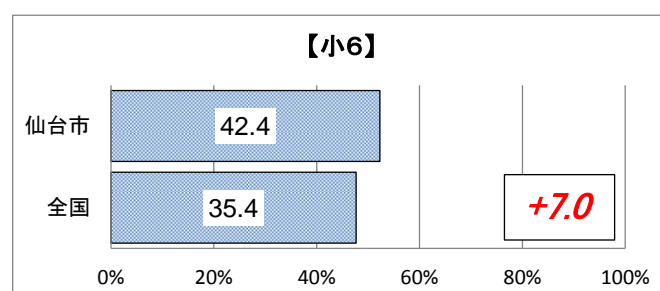
4 3. 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある (小 41)



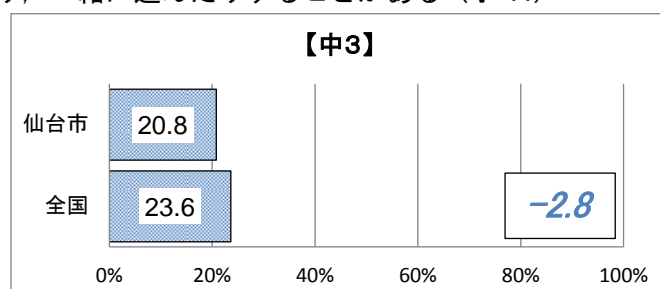
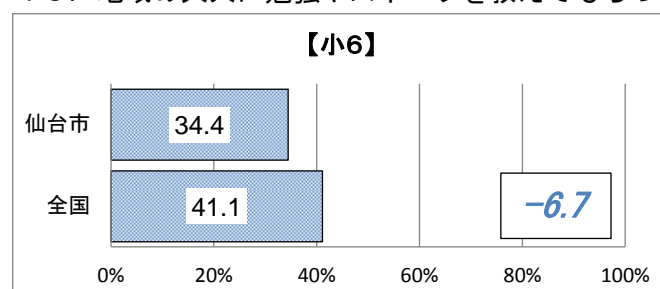
4 4. 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある (小 42)



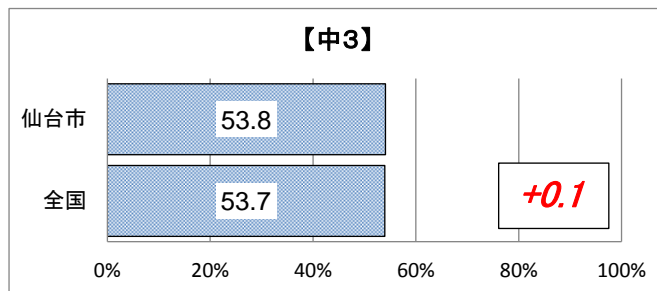
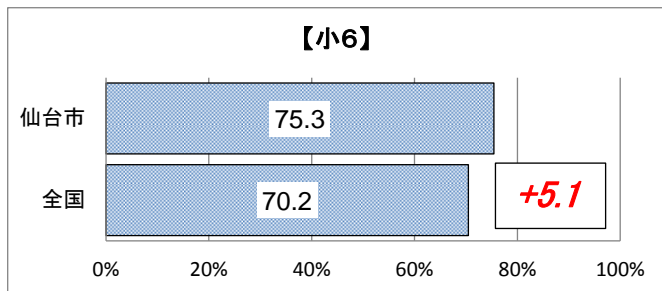
4 5. 地域社会などでボランティア活動に参加したことがある (小 43)



4 6. 地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがある (小 44)



67. 授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思う（小65）



□指導改善の方策

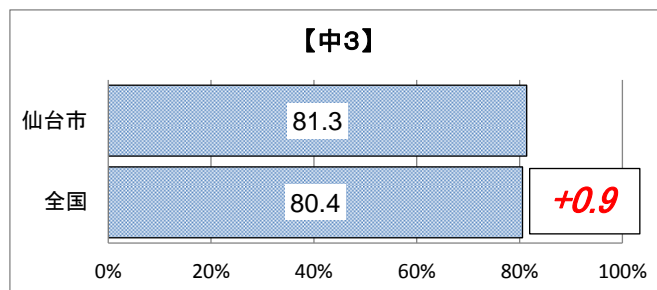
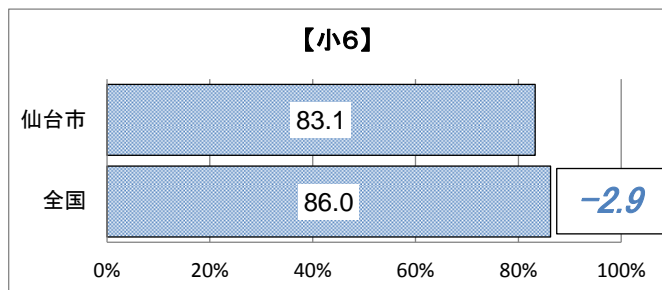
○学校支援地域本部を意図的・計画的に活用する

- 「地域とともに歩む学校」を基盤に、学校事情に応じた、家庭・地域と連携した活動の一層の推進に努める。また、学校支援地域本部などの活用をとおして、児童生徒が地域と関わる機会が増えていることから、児童生徒、教職員、地域・家庭のニーズを把握し、質の高い支援に結び付くように、学校は、意図的・計画的に児童生徒と地域が関わる場を設定するようにする。

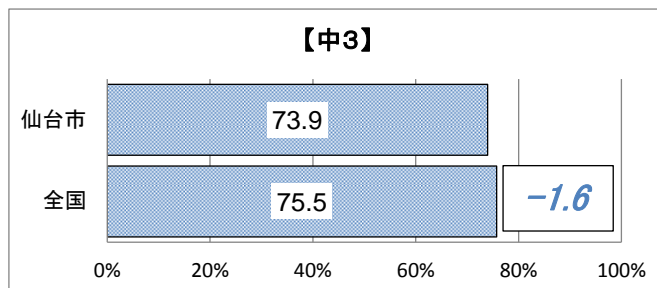
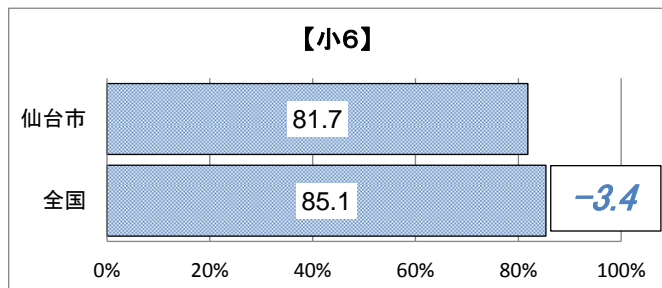
【分析結果5】

「教員との関わり」に関する項目において、先生はよいところを認めてくれている、と回答している割合は、小学生は全国より低い。また、先生は分かるまで教えてくれる、と回答している児童生徒の割合は全国より低い。

40. 先生は、あなたのよいところを認めてくれている（小38）



41. 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところを、分かるまで教えてくれる（小39）



□指導改善の方策

○子供と向き合う時間の確保に努める

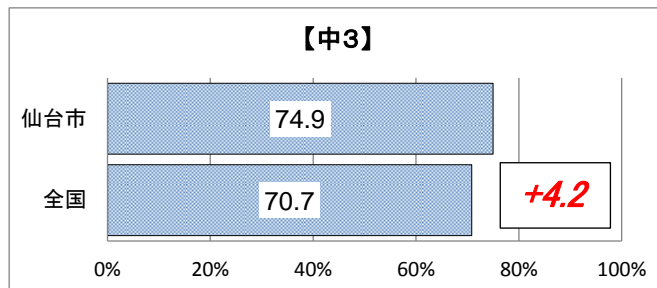
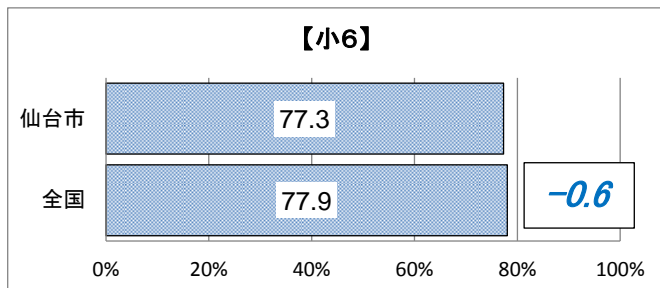
- 児童生徒と向き合い、子供のよさや学習状況等を深く把握するように努める。また、放課後等の時間の使い方を工夫し、補充的な学習を必要とする児童生徒に対するサポート体制を検討する。さらに、指導手法の改善につながる研修等をとおして、きめ細かな指導のより一層の充実を図る。

【分析結果 6】

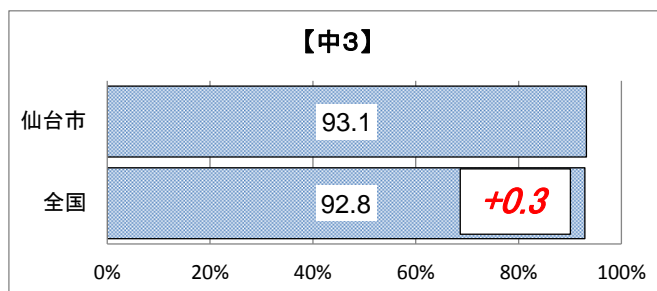
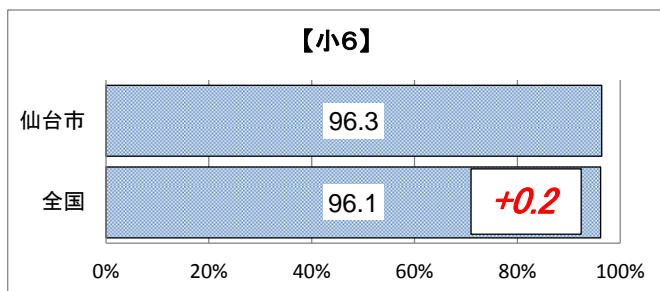
自分には、よいところがあると思っている児童生徒の割合は、全国と比べて小学生は低いですが、昨年度より縮まり、これまでで最も高い割合となっている。また、中学生は全国と比べて高く、これまでで最も高い割合となっている。

いじめはいけないことだと思う児童生徒の割合は、全国と同等である。

6. 自分には、よいところがある。



5 4. いじめはどんな理由があっても、いけないことだと思う (小 52)



□指導改善の方策

○たく生き（たくましく生きる力学習プログラム）の実践

- ・ お互いの良さを認め合ったり、自己肯定感を高めたりすることができるように、「たく生き授業プラン集」の実践を各学校の自分づくり教育年間指導計画に位置付け、計画的な実践を行っていくようにする。

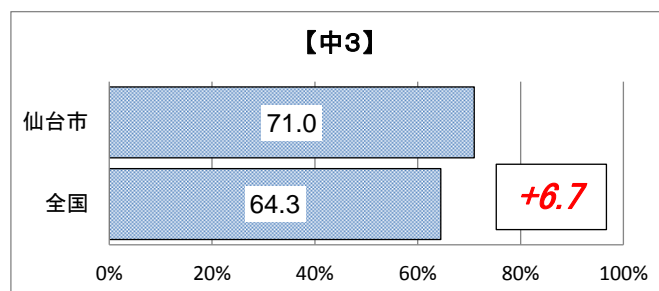
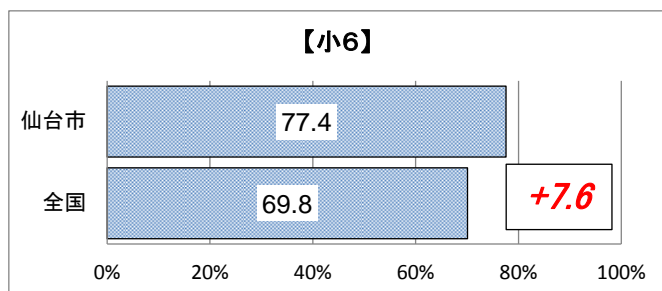
○児童生徒が意欲的に学校生活を過ごすことができる学級・学年づくり

- ・ 児童生徒が安心して自己表現ができるような学級・学年づくりを行い、児童生徒が学習活動等に主体的に取り組んだり、前向きな気持ちで学校生活を過ごしたりすることができるようにする。

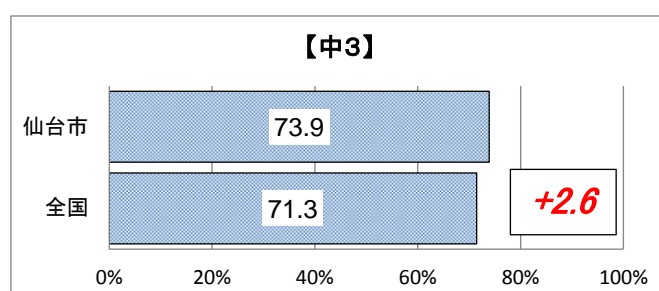
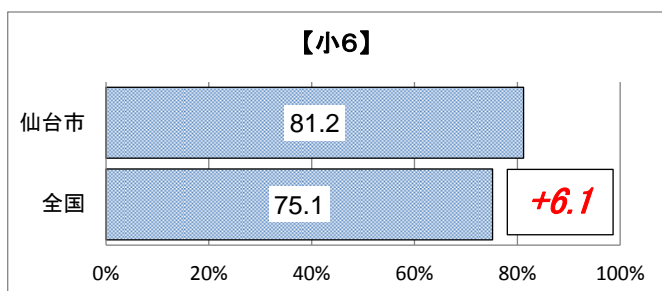
【分析結果 7】

総合的な学習の時間では、課題解決的な学習活動に取り組んでいると回答した児童生徒の割合が高い。また、自分の考えを適切に伝え、考えを深めたり、広げたりしていると回答した児童生徒の割合が高い。

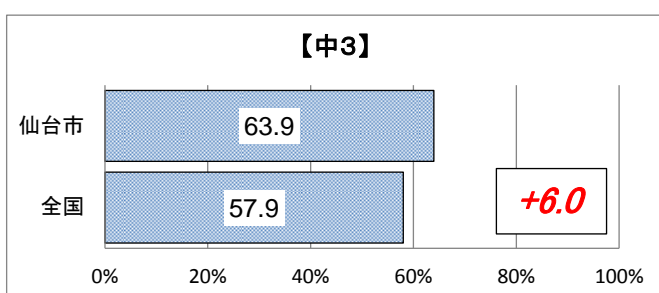
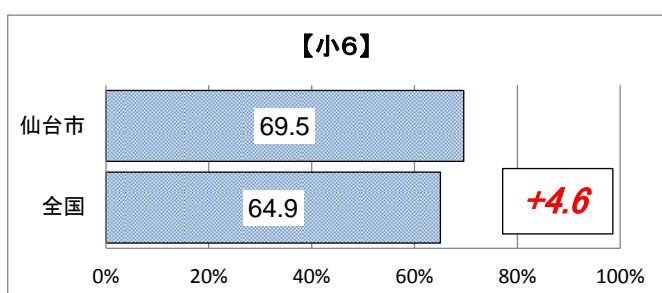
56. 「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる（小54）



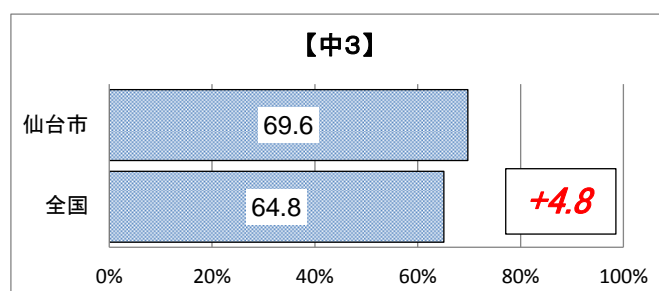
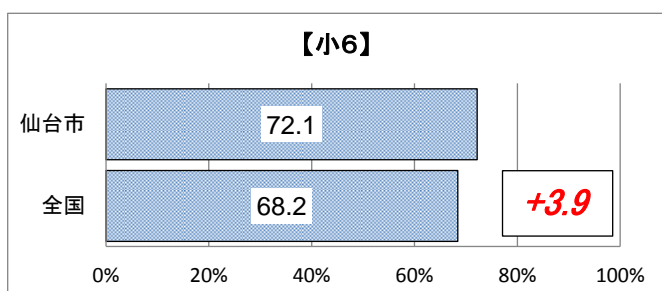
60. 授業では、自分たちで課題を立て、情報を集め、整理し、発表する学習活動をよく行っていた（小58）



62. 授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた（小60）



70. 話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている（小68）



□指導改善の方策

○「総合的な学習の時間」の主体的取組

- ・ 総合的な学習の時間においては、児童生徒が自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることができるよう、授業改善を図っていく。

○言語活動の充実

- ・ 国語で身に付けた「話す・聞く」力を活かし、各教科等において、記録、要約、説明、論述、討論などの主体的な言語活動を重視した指導の充実を図る。

平成29年度全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙調査の分析結果

〈家庭学習〉

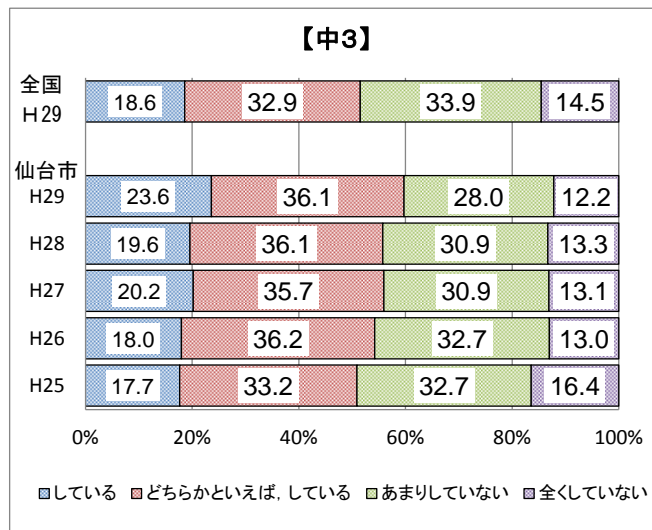
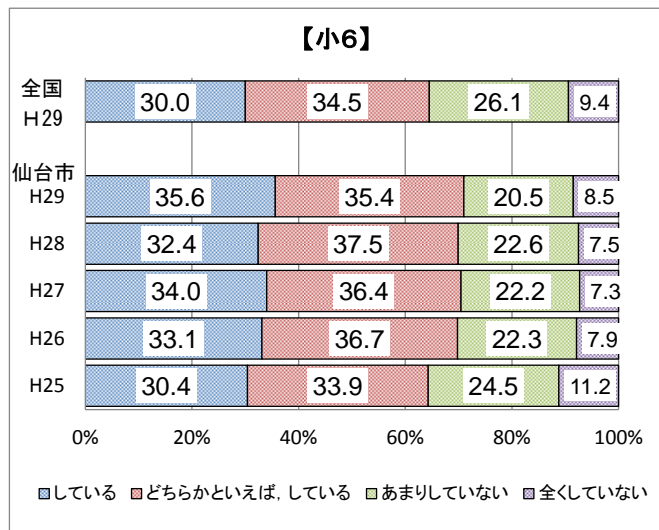
※H25～29 調査結果を掲載

○ 家庭での学習について、以下と回答している児童生徒の割合は、昨年度に引き続き、高く推移している。

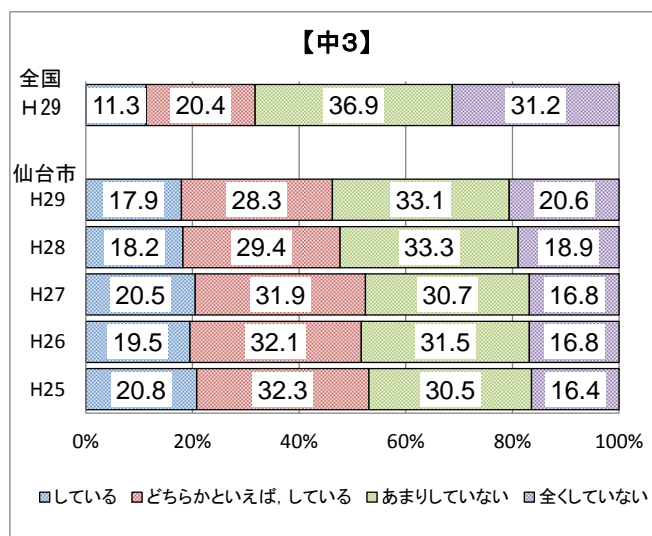
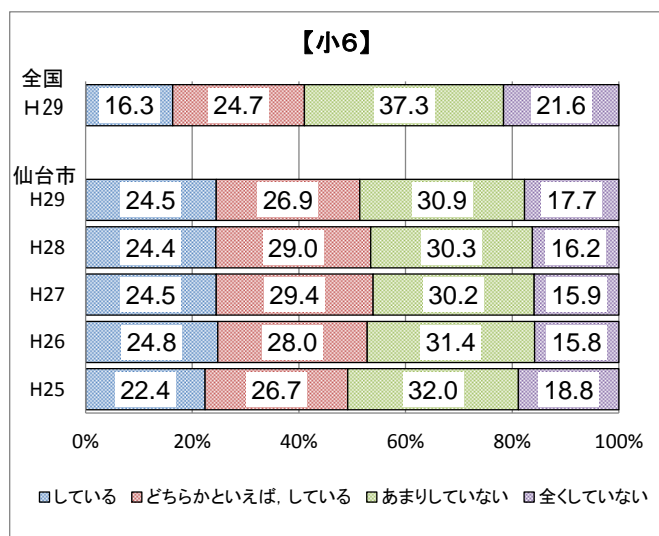
- ・家で、自分で計画を立てて勉強している（31）
- ・家で、学校の授業の予習をしている（33）
- ・家で、学校の授業の復習をしている（34）

◇ 上記の項目について、小中学校ともに全国と比べて大きく上回っている

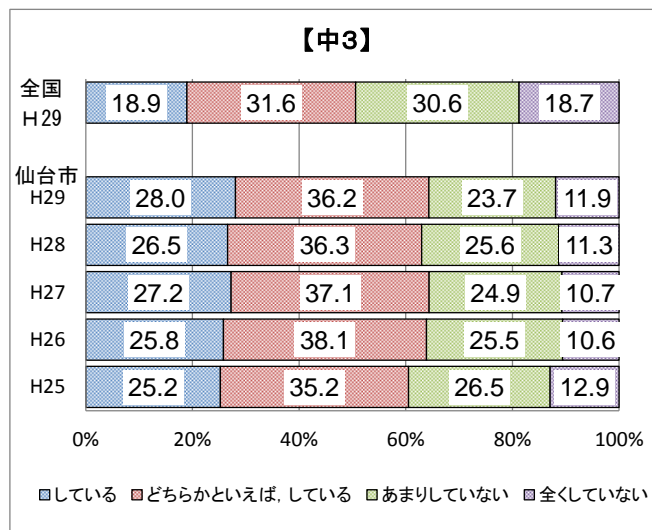
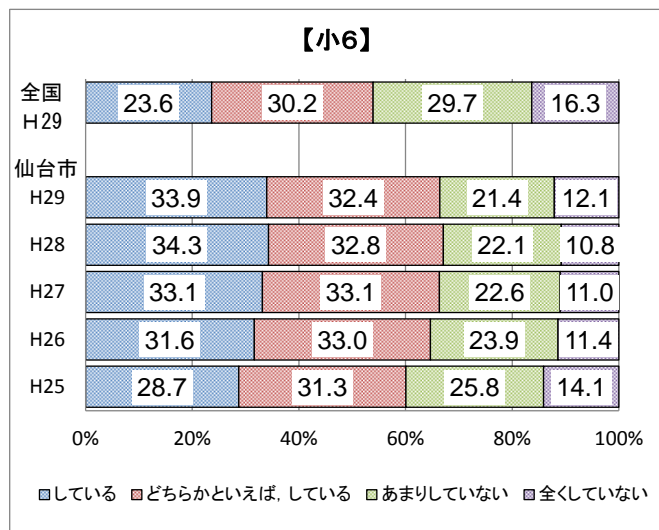
31. 家で、自分で計画を立てて勉強している（小29）



33. 家で、学校の授業の予習をしている（小31）



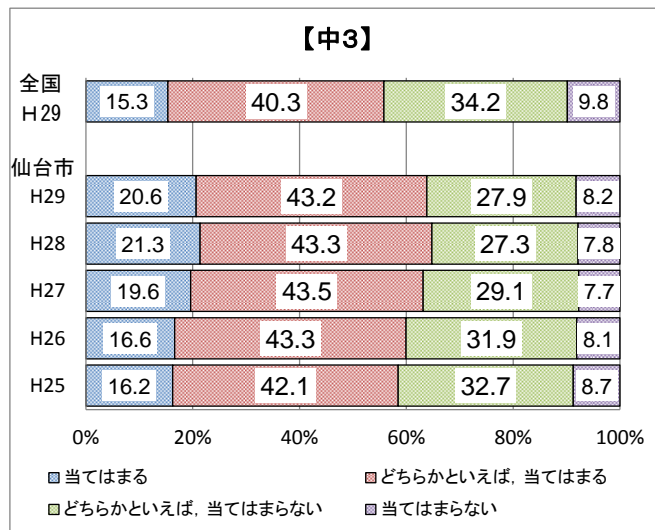
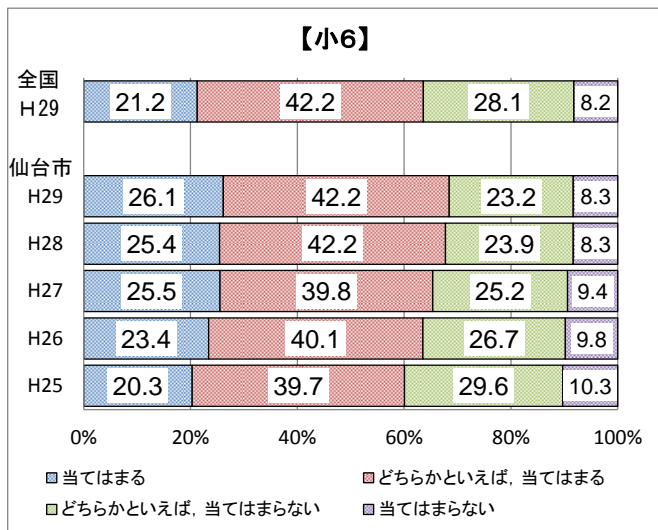
34. 家で、学校の授業の復習をしている（小32）



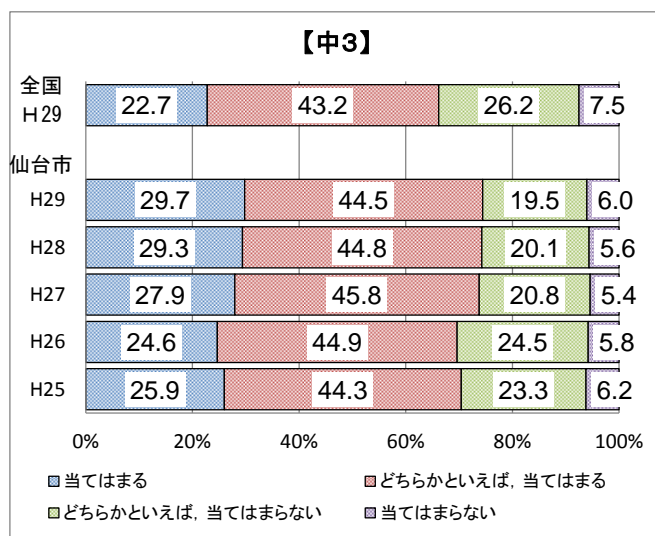
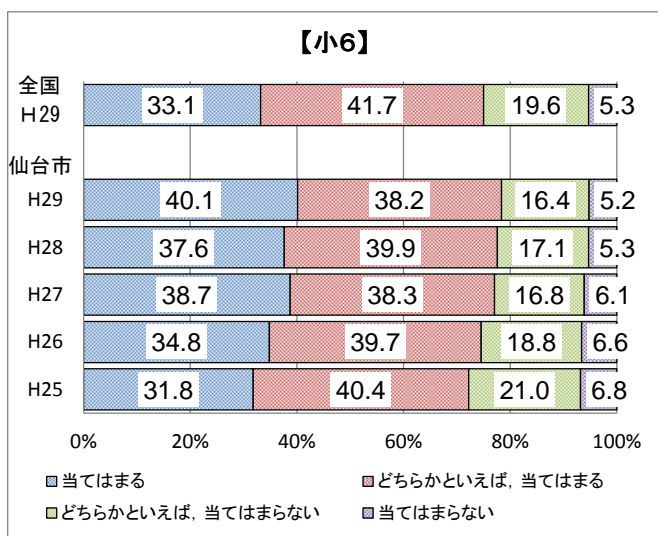
〈国語の学習〉

- 国語の授業について、以下と回答している児童生徒の割合は、年々増加している傾向がうかがえる
 - ・国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している（77）
 - ・国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いている（78）
- ◇ 上記の項目について、小中学校ともに全国を上回っており、特に中学校では大きく上回っている

77. 国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している（小75）



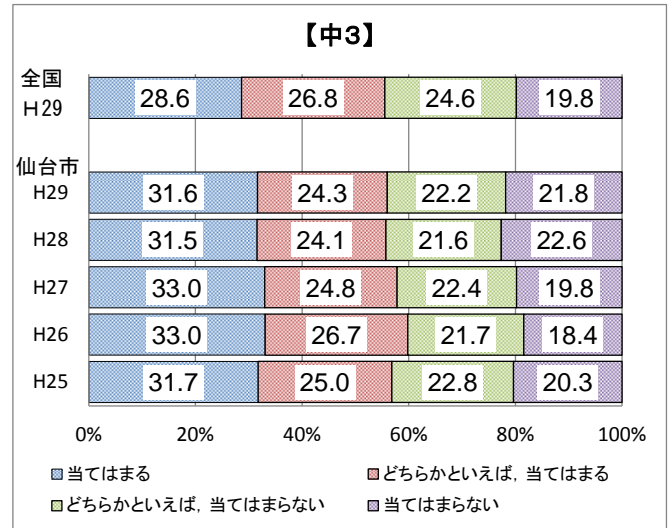
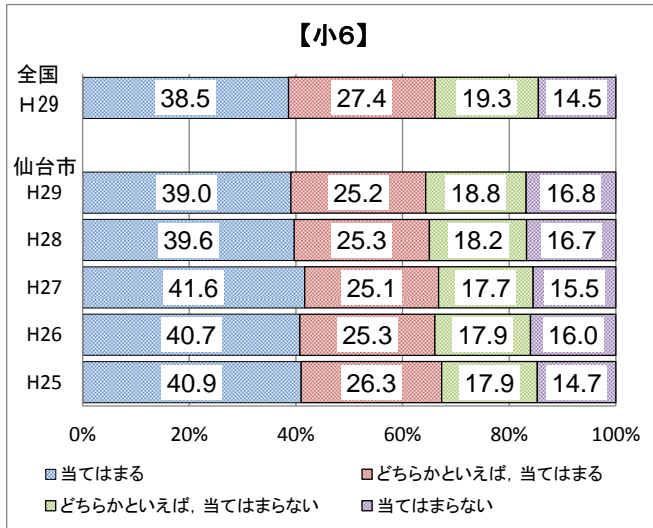
78. 国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いている（小76）



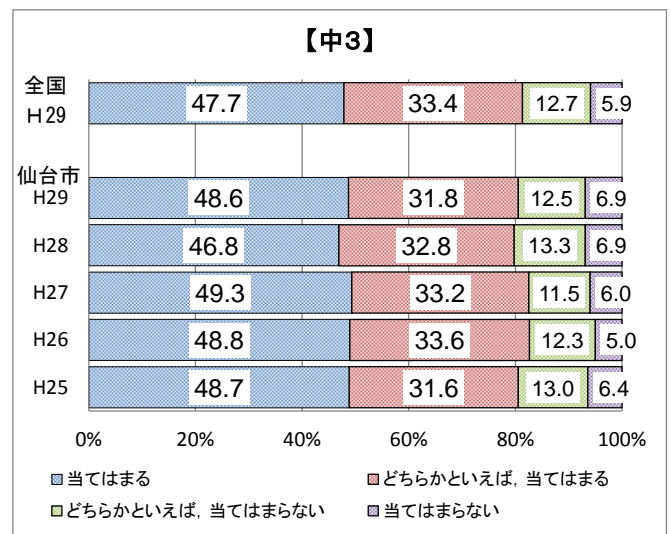
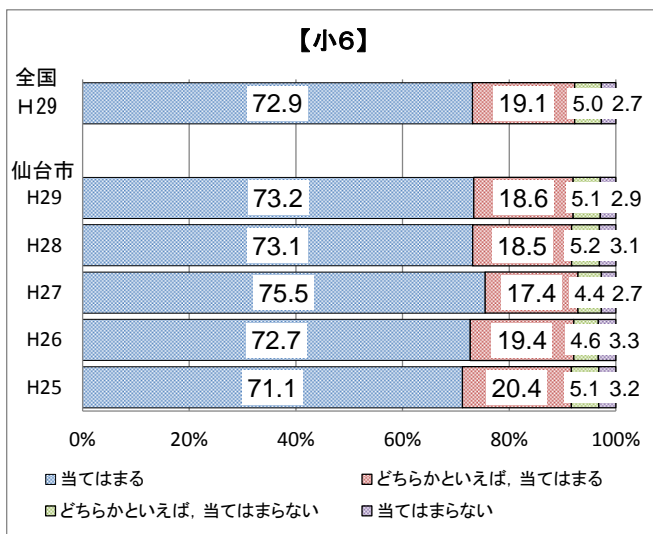
〈算数・数学の学習〉

- 算数・数学について、以下と回答している児童生徒の割合は、全国を下回っている（中学校 80 を除く）
 - ・算数・数学の勉強は好きか（80）
 - ・算数・数学の勉強は大切だと思うか（81）
 - ・算数・数学の授業の内容はよく分かるか（82）
- ◇ 上記の項目について、小学校は全て全国を下回っている

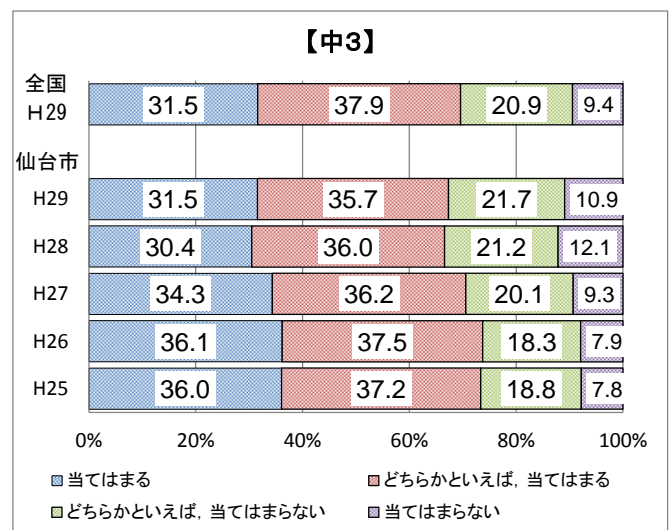
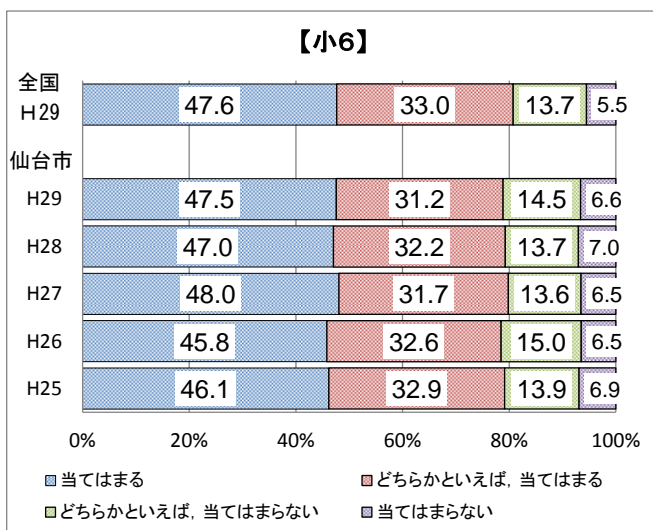
80. 算数・数学の勉強は好きか（小78）



81. 算数・数学の勉強は大切だと思うか（小79）



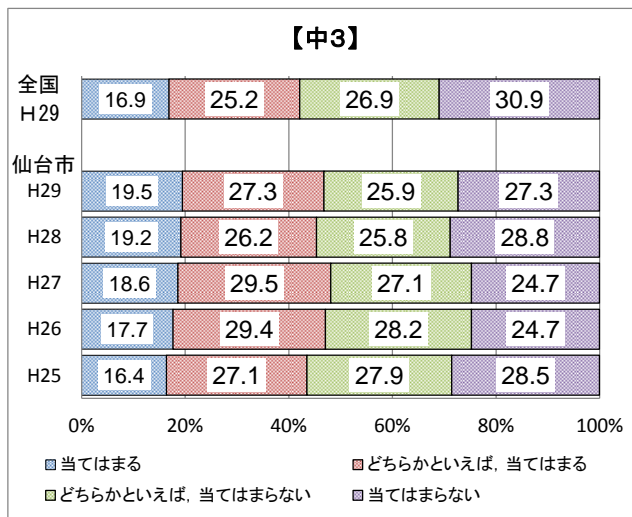
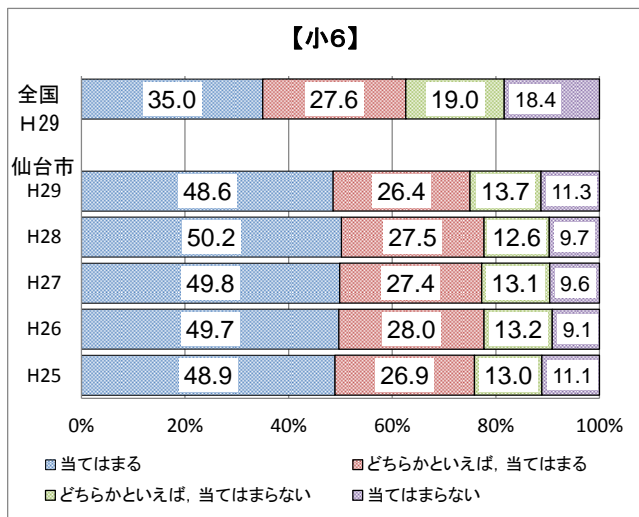
82. 算数・数学の授業の内容はよく分かるか（小80）



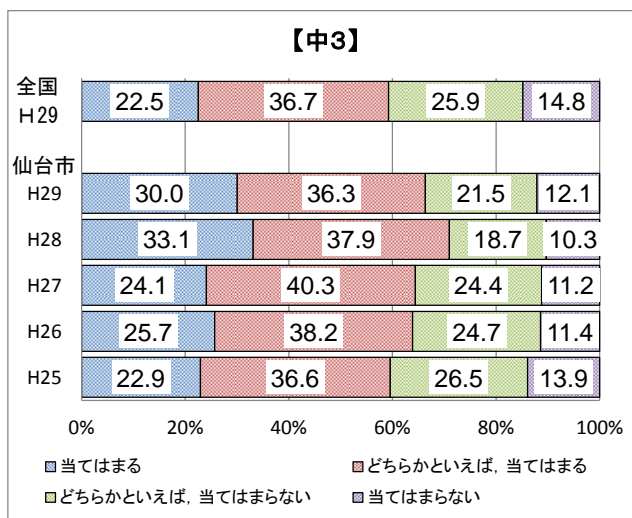
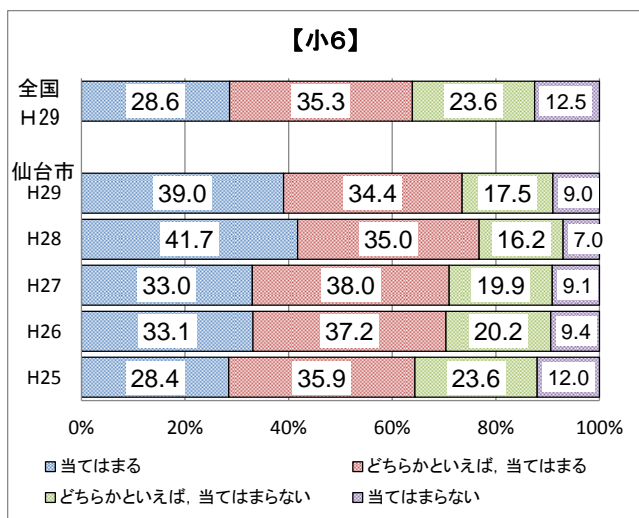
〈地域との関わり〉

- ◇ 地域との関わりについて、以下と回答している児童生徒の割合は、小中学校ともに全国を上回っている
 - ・地域の行事に参加している（４２）
 - ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある（４３）
 - ・地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある（４４）
 - ・地域社会などでボランティア活動に参加したことがある（４５）
 - ・授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思う（６７）
- ◇ 地域との関わりについて、以下と回答している児童生徒の割合は、小中学校ともに全国を下回っている
 - ・地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがある（４６）

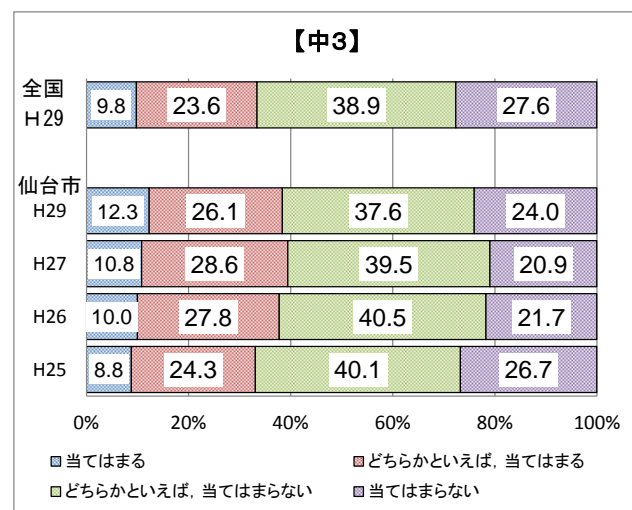
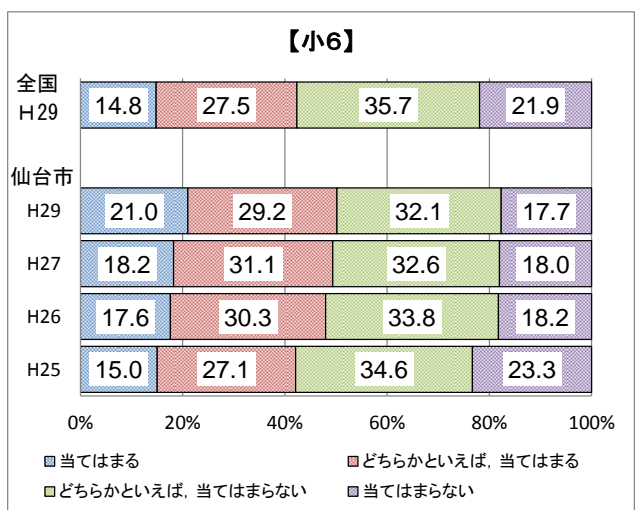
４２．地域の行事に参加している（小４０）



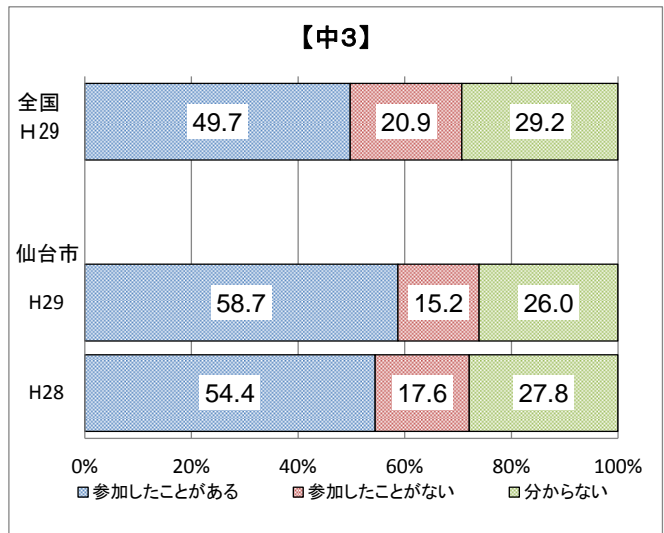
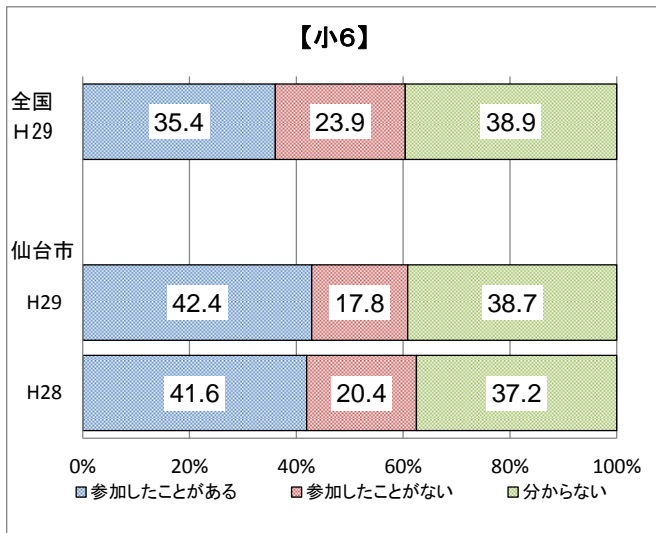
４３．地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある（小４１）



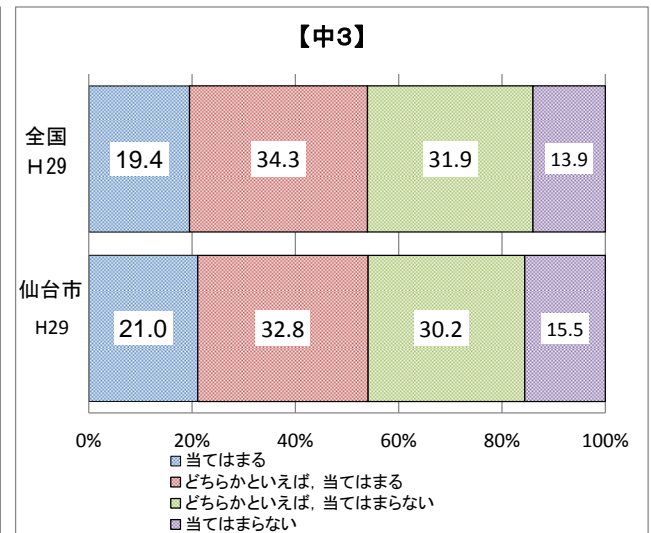
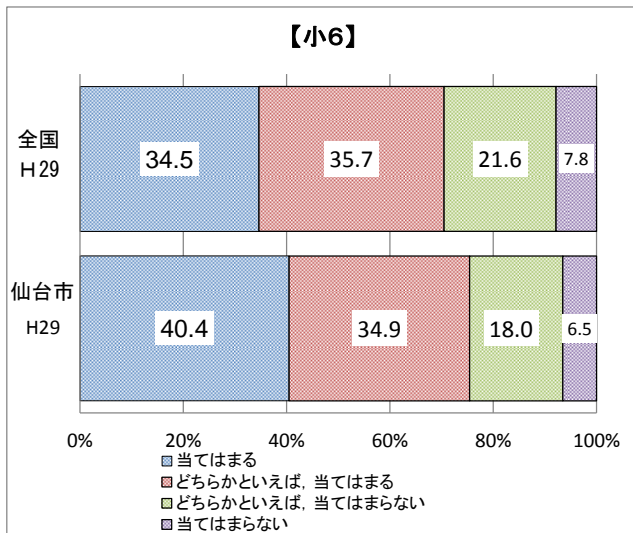
４４．地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある（小４２）



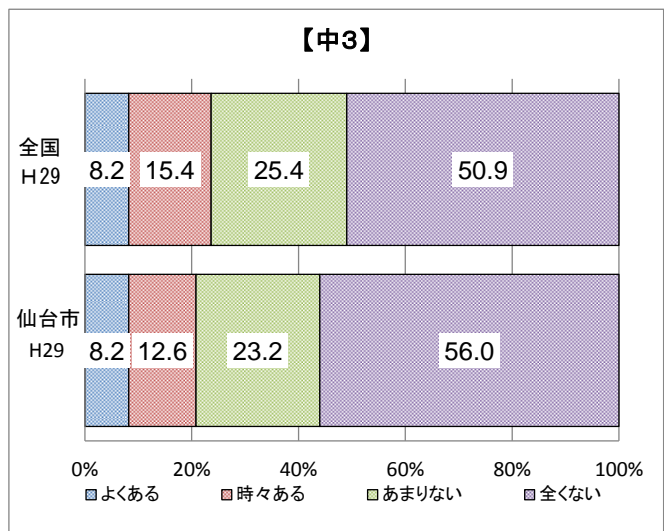
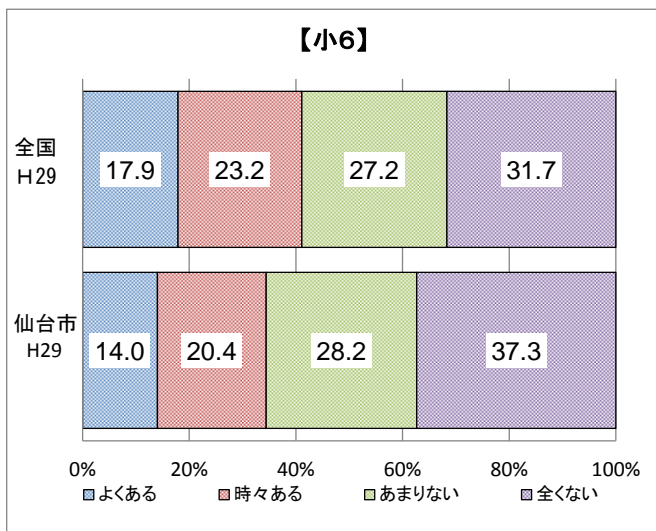
4 5. 地域社会などでボランティア活動に参加したことがある（小 43）



6 7. 授業や課外活動で地域のことを調べたり，地域の人と関わったりする機会があったと思う（小 65）



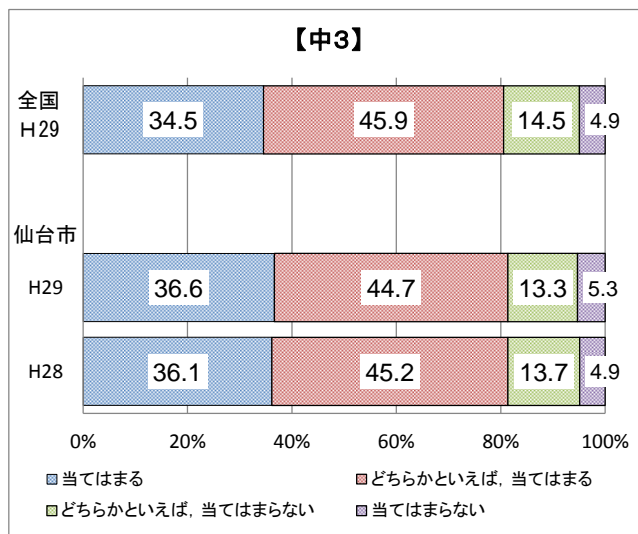
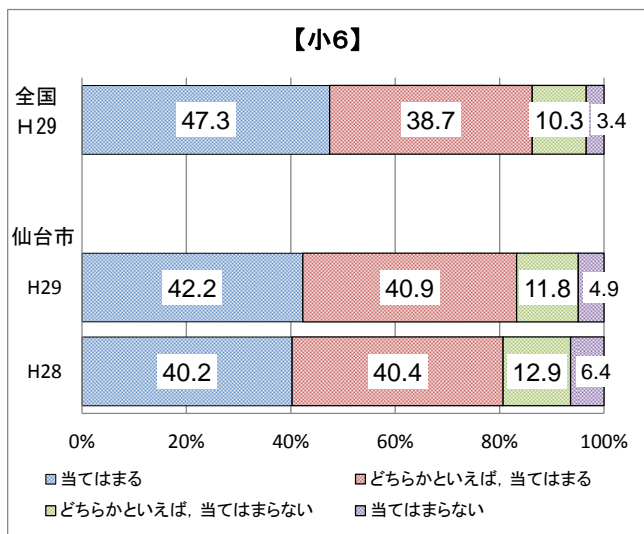
4 6. 地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり，一緒に遊んだりすることがある（小 44）



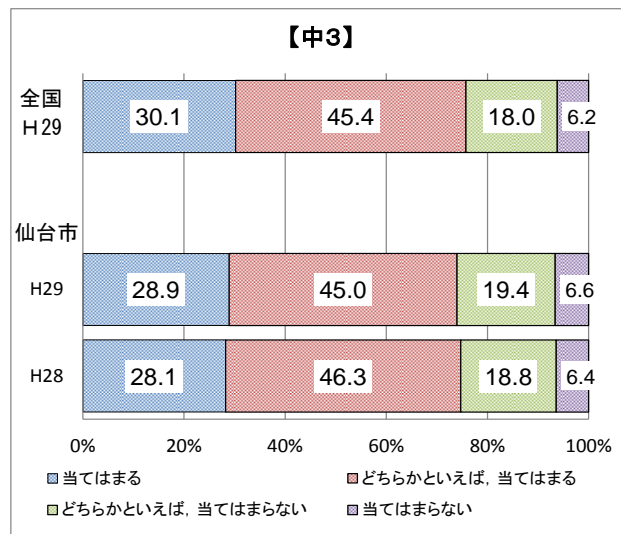
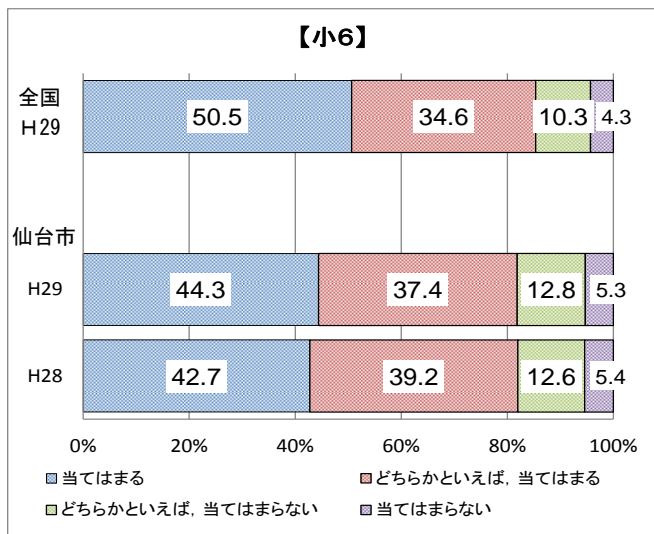
〈教員との関わり〉

- ◇ 児童生徒と教員との関わりについて、以下と回答している児童生徒の割合は、小中学校ともに全国を下回っている（中学校 40 を除く）
- ・先生は、あなたのよいところを認めてくれている（40）
 - ・先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところを、分かるまで教えてくれる（41）

40. 先生は、あなたのよいところを認めてくれている（小38）



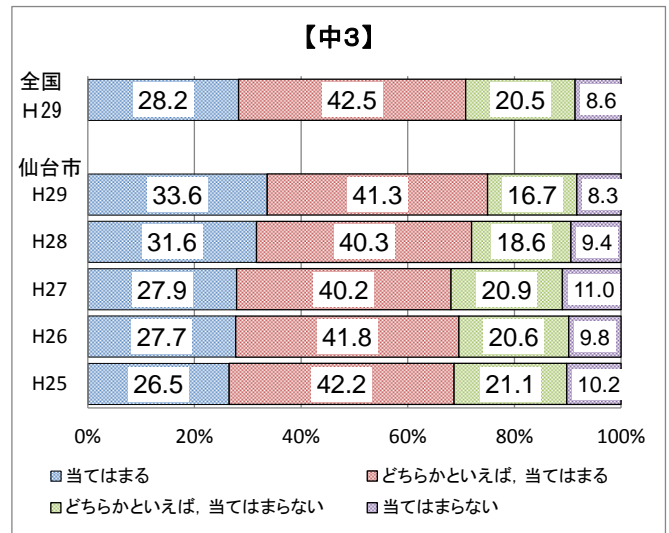
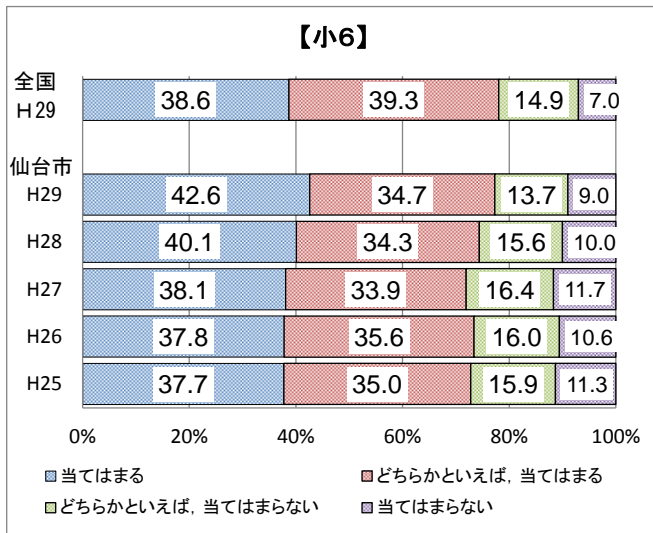
41. 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところを、分かるまで教えてくれる（小39）



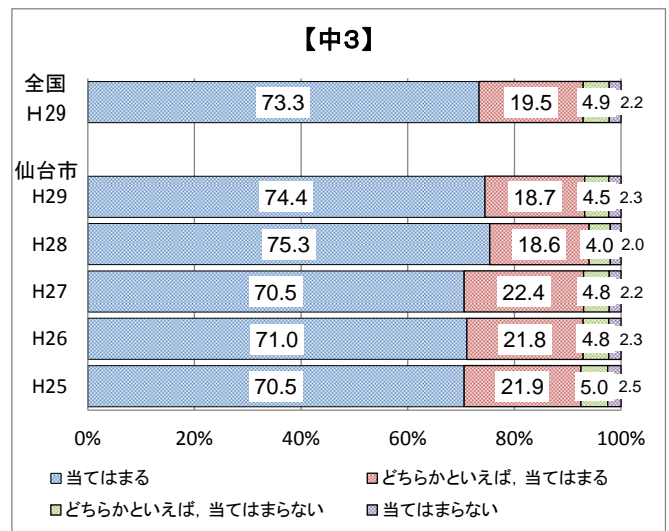
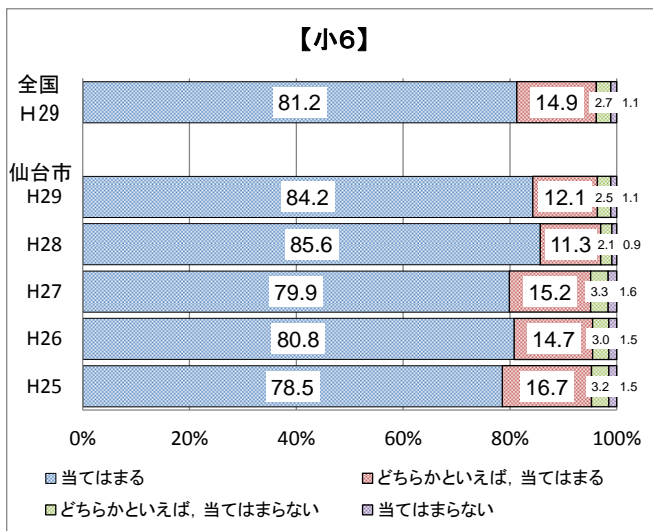
〈自己肯定感・いじめ〉

- 自分には、よいところがあると思っている児童生徒の割合は、昨年度に比べて増加している。
- ◇ 上記の項目について、児童生徒の割合は、中学校は全国を上回り、小学校は下回っている。
- いじめはどんな理由があっても、いけないことだと思う児童生徒の割合は、全国と同等である。

6. 自分には、よいところがある



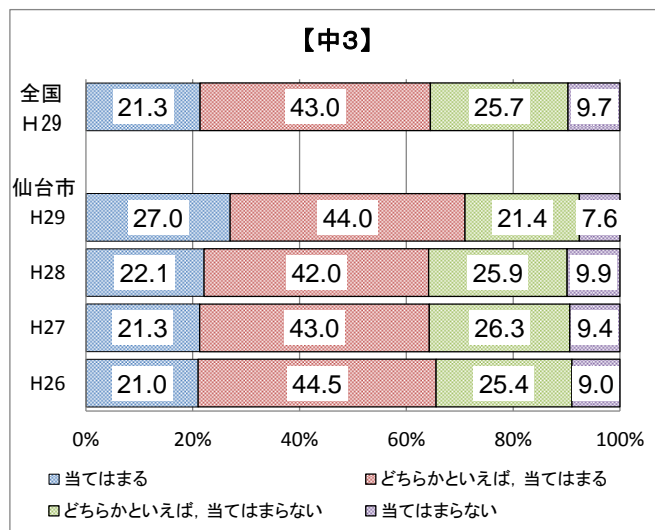
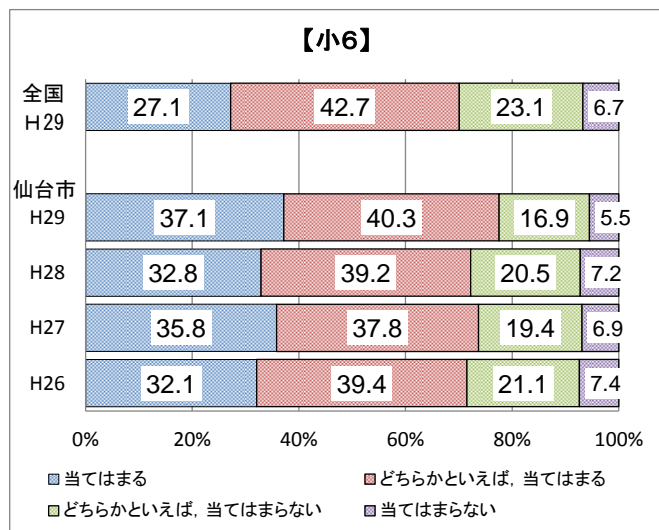
5.4. いじめはどんな理由があっても、いけないことだと思う (小52)



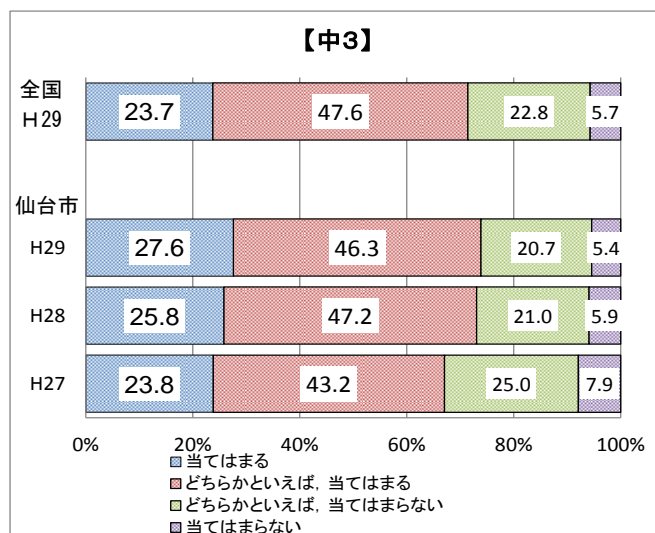
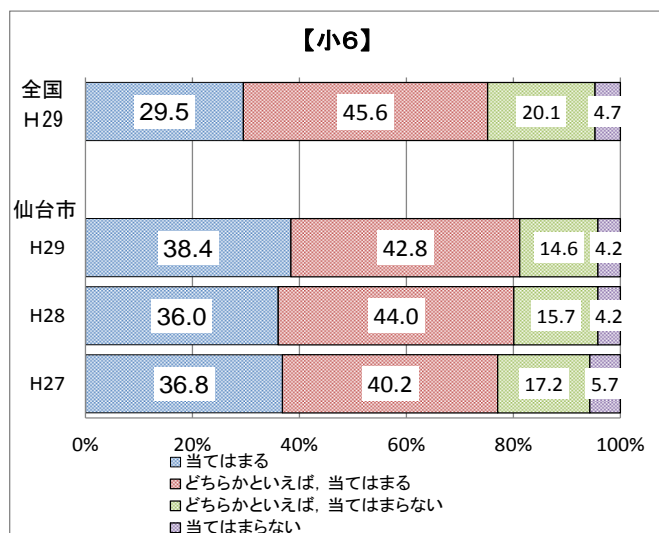
〈総合的な学習の時間・言語活動〉

- ◇ 総合的な学習の時間や言語活動について、以下と回答している児童生徒の割合は、小中学校ともに全国を上回っている
- ・「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる（56）
 - ・授業では、自分たちで課題を立て、情報を集め、整理し、発表する学習活動をよく行っていた（60）
 - ・授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた（62）
 - ・話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている（70）

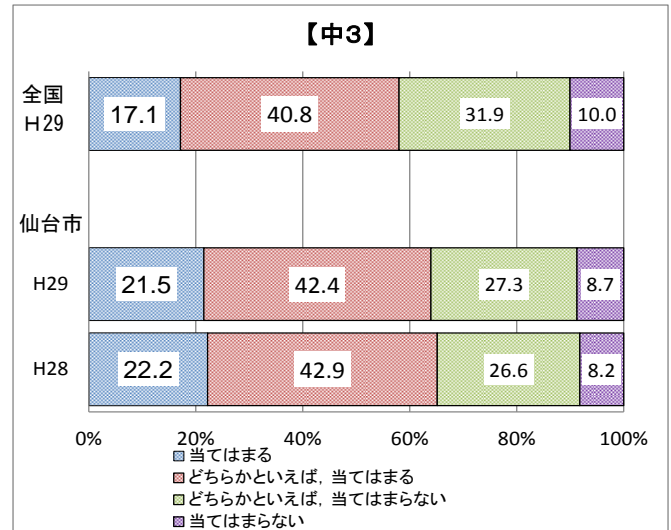
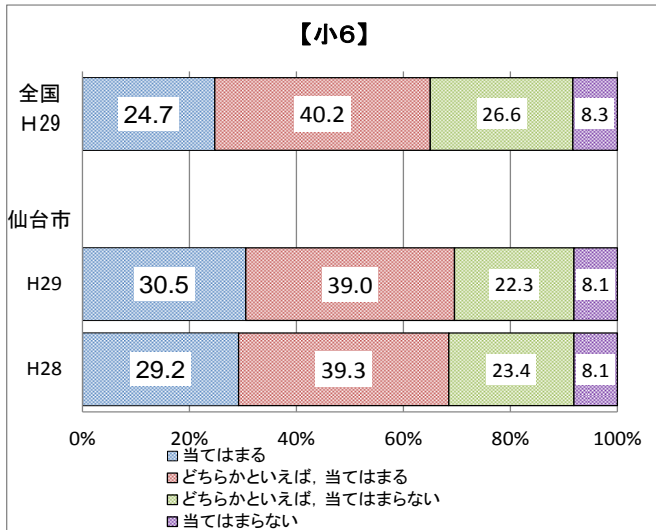
56. 「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる（小54）



60. 授業では、自分たちで課題を立て、情報を集め、整理し、発表する学習活動をよく行っていた（小58）



62. 授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた（小60）



70. 話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている（小68）

